

文部科学省平成 26 年度委託事業  
「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」

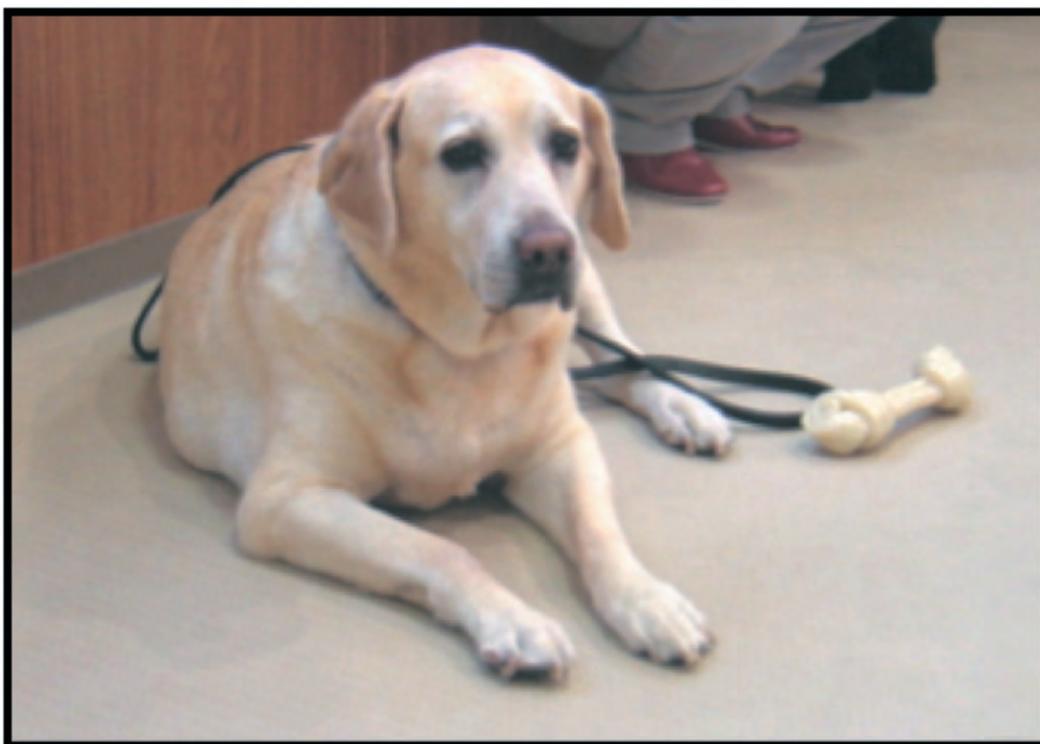
獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業

[職域プロジェクト]

[獣医療体制分野における中核的専門人材養成  
としての動物看護師養成プログラムの開発と検証]

[臨床系科目検証 WG]

# 動物看護学



\* ラブラドル・レトリバーのパッチ(13 歳時)

平成 27 年 2 月

学校法人 宮崎学園

大阪ペピイ動物看護専門学校

# 目次

はじめに	1
第1章 動物看護学概論	3
第2章 動物看護過程の展開	29
第3章 動物看護師の倫理綱領について	49
第4章 動物看護技術について考える	65
第5章 事例で考える動物看護過程の実際	146
参考文献	159
参考資料	160

日本獣医師会の「インフォームドコンセント徹底」宣言

獣医師の誓い—95 宣言

日本獣医師会・獣医師会活動指針

# 動物看護学

## はじめに

私達は、家族となった動物たちとふれあい、心のよりどころとしての存在である動物たちに惜しみなく深い愛情をささげる。一人一人が、大切に思う動物たちに寄せる思い遣りの心、“何かしてあげたい”という思いを何らかの形にしている。

まさに、みなさんが、大好きな動物たちに「何かをしてあげたい」と思う無償の優しい気持ちこそが、動物を看護する精神であり、それを正しく遂行するための方法として動物への「看護技術」が存在する。

動物看護師を志す多くの人は、動物が大好きで「何かしてあげたい」という願いを持っているのではないだろうか。

なかには、自分が辛い体験をし涙した時に、ただ、そっと寄り添っていてくれた猫や犬の、柔らかく優しく感じた感触の思い出を持っている人もあるだろう。

人より体温が高くて暖かく、やわらかい被毛を持つ動物たちは、傍らに寄り添っていてくれるだけで傷ついた人の心や、疲れ果てた体を復活させてくれる不思議な力を持っていると、私は感じている。

様々な場面で、このように動物からの大きな労りの瞬間をもらってきた私達が、自分が受けたたくさんの愛をなんらかのかたちで返したいという気持ちを、実際の行為として具体化する方法は、個人が勝手にバラバラの方法で実現したとしても、それが最適で安全な手段であるとは限らない。動物にとってはただの「おせっかい」となってしまうこともあるだろう。

私達が「動物のために何かしたい」という気持ちを行為として形にするためには、まずは動物について学問としての基本的知識を持ち、動物を尊重し、愛護と福祉の精神を持って、生態系に適した「お世話(補助)」や「処置」ができるようになることではないだろうか。

また、統一認定資格を手にする動物看護師は、指示を待つのではなく、自らが「何が求め

られているのか」「何が最適なのか」を考えて行動できる事が必要となる。

なぜなら、各種の動物たちはそれぞれの生態系に適した環境で<sup>1)</sup>「動物も人と同様に、みずからの存在を尊重され、健やかな生活を送ることを願っている」のであるが、「動物たちには言葉はなく、直接人間に訴えることはできない」から、全ては私達が「何が必要なのか」や「動物が何を望んでいるのか」を観察し、その事実を知識に照らし合わせて判断し、個体に合った方法を「技術」として実行することになるからだ。

2009年 日本動物看護職協会から「動物看護者の倫理綱領」が発表された。この中の前文には下記が明示されているので紹介しておく。

「動物も人と同様に、自らの存在を尊重され、すこやかな生活を送ることを願っている。しかし、動物たちには言葉はなく、直接人間に訴えることはできない。人間は、動物たちが人間に何を望んでいるかを常に考え、動物たちの思いに応えなければならない。

動物看護者は、動物の看護を業務として動物医療の最前線で活動する専門職である。動物の看護は、多様な環境に生存する多様な動物種を対象として、動物の健康の保持と増進、病気の予防と動物医療の補助に努め、動物たちが健やかな一生を全うするように援助することを目的としている。

日本動物看護職協会の『動物看護者の倫理綱領』は、動物医療施設における患者対象となる家庭動物のみならず、学校飼育動物、教育・研究実験動物、産業動物、さらに野生動物等を対象とするあらゆる場で動物看護を実践する専門職の行動指針であり、事故の実践を振り返る際の基盤を提供するものである。また、動物看護について専門職として引き受ける範囲を社会に対して明示するものである」

動物看護師は、自らの行動において疑問が生じた際には、この動物看護者の倫理綱領に立ち返って判断して動く必要がある。

本テキストでは、第1章で、動物看護学概論を扱うほか、第2章で動物看護過程の展開について学び、第3章では動物看護に必要な基本的技術を紹介する。

## 第1章 動物看護学概論

### 1. 動物看護学を学び始めるにあたって

動物看護師をめざし、動物看護学を学ぶ人は動物看護についてどのようなイメージを持ち、動物看護師の役割についてどのように考えているだろうか。

多くは、動物病院の診療場面で獣医師と共に働く動物看護師の姿をイメージするかもしれない。または、動物病院を訪れた際に、受付で飼い主からの申し出をやさしく聞き、手際よく必要な書類やカルテを整理している姿だろうか。

どちらの場面にも、悩みを持って動物病院を訪ねた飼い主に対しては明るく元気な姿で接し、日常ではない場所に連れて来られて不安を感じている動物には、慈しみを感じるプロの手法で動物に対応してくれる姿を見ることができないのではないだろうか。

このように動物看護師の仕事にはさまざまな場面があるだろう。しかし、動物病院の診療場面でのみ働くことが動物看護師の業務でないことを知り、動物の健康を維持し、病気の予防をすることも動物看護師が活躍できる場であることを学習して欲しい。

確認しておく必要のあることは、獣医師の担当する業務と、動物看護師が担う業務とは異なり、動物看護師は「動物の看護」という独自の機能を持つ専門職として業務を果たすのだ、ということである。

そのことを各自が念頭において、動物看護とは何か、を一緒に考えていきたい。

### 2. 動物看護とは何か？

#### 1) 動物看護の目的

動物看護の目的とは、すべての生活ステージにおける、その動物の一生を支える(お世話する)こと。

個々の動物の状況を理解し、個別性をふまえた看護を行うことであることを理解したい。また、これを実践するためには、動物看護師の視点で考えねばならない。

動物看護の目的を考えた時、今持っている病気や障害のある動物を「看護すること、看病すること」のように思っていることが多いかもしれないが、それだけではなく、その動物のすべての生活ステージに関与し、補助しお世話することであることを認識したい。

また、その動物看護の実践は個々の動物の環境や状況を理解した上で、個別性を踏まえて行うことである。

実際の動物看護とは、どんな時に(これが目的)、誰のために(動物看護を実践する対象とは、動物だけなのだろうか?)そして、それはどうやって(動物看護を実践する方法と技術には、どんなことがあるのだろうか?)行われるものなのか、考える。



ここに、入院ケージの中に入っている1頭の犬がいる。

この写真を観たときに、みなさんはどんなことを感じたであろうか？

自分が見て感じたこと、わかったことを書き出してみよう。

私達は、ここに写っている犬が、健やかに辛い悲しいことが無いような生活を送るためには、何をどうすればよいのか、また、そうできないのはなぜか、ということを考えながら動物看護を実践する必要がある。

そのためには、まず観察し、今この犬はどういう状況なのか、どんなことが起きているのか、

何が問題なのか、その問題はなぜ起きているのか、という出来る限りの情報を集めることから開始し、問題を解決するためにはどうしたらよいのか、を考える。

自分で考えてわからないこと、または今以上の情報が必要な時には、カルテを見る、担当者から話を聞く、などの方法を駆使して情報を集めることが必要になる。

情報の中には、主観的情報と客観的情報がある。自分の感じた事や、考えで構築したものは主観的情報と言い、だれもが同じに感じるわけではない。しかし、だれがどう見ても同じ結果であるもの、数字で表わされたデータなどは客観的情報と言う。

まず観察し、問題のない生活が送れない原因がどこにあるのか、問題点はなにか、を判断できることが重要な素質である。そのためには、常に自分自身のアンテナを高く掲げ、動物看護をする上で一番の基本となる観察力を技術として習得できるようにする。

私達が、動物看護師として仕事をするのは、この写真のような犬が、健やかに辛く悲しいことがなく、一生を全うできるように関わるためであることを常に忘れないようにしたい。

## 2) 動物看護が必要なのはどんな時だろうか

動物看護とは、あらゆる生活レベルの動物を対象に実施される、ということを理解できるようになりたい。

あらゆる生活レベルとは、動物が健康な時、病気の時、回復の時、終末期の時をしめす。では、具体的に動物看護がどんな生活ステージの時に何を目的とするのか、を見てみよう。

動物看護の対象となる時期は、病気の時のみではなく、健康な時の現状を維持し、疾病の発症を予想し予防すること、病気になった時には、獣医療の補助と二次的な疾患の発症を予想し、未然に防ぐこと。回復の時には、動物が日常生活を自立して(注:動物が飼育者の助けを得ずに、生きていくために必要な日常の行動ができること。例:起立する、食べる、飲む、排泄できる、グルーミングできるなど)活動できるようにお世話が必要となる。いつまでも飼主の手を借りてのみ日常生活をさせているだけでは動物看護ではない。

また、回復することのない終末期を迎えた時には、苦しみのない平和な死を迎えることができるような助けが必要となる。

最期の時を迎え、死後の動物の体を生前の美しさと、その動物らしさを損なわないように保持して野辺送りができるよう準備することも動物看護師に必要な技術の一つである。

それぞれの時に、どんな動物看護の実践が必要なのかを確認してみよう

- ① 健康な時 現状の維持と病気の予防を考えて、栄養的管理やワクチン接種の必要性を飼主に指導し実践する。子犬の時には、しつけ教室や、避妊手術の必要性の指導も重要。

- ② 病気の時 獣医療の補助と二次的に発症する可能性のある疾患を予想し、その予防に努める。更なる苦しみが動物に課せられないよう配慮する。
- ③ 回復の時 温かい援助の手を差し伸べるだけでなく、自立を目指した生活活動ができるようになるための訓練やリハビリなども実践する。まずは自分で起立できること、歩行ができ体の移動ができること。飲食ができること。排泄ができること。皮膚などを清潔に保つためにグルーミング(身づくろい)ができること。
- ④ 終末期 終末期を迎えた動物に苦しみのない平和な死への時間を作ることができるように、準備しお世話する。動物のみならずその飼い主の悩みや後悔、悲しみなど心の叫びにも耳を貸し、心に寄り添った対応ができるようになりたい。



つまり、「看護」という言葉はだれかを、何かを見守る、ということである。英語で看護を意味する nurse という単語は、「養う」から出たものだという。また、動物病院の中ではチームで獣医療を行うが、共に仕事をすることが多い獣医師の仕事と動物看護師の仕事の内容は、何がちがうのかを確認しておきたい。まず、獣医師にしかできない事は、診察・診断・手術・予後判定である。そして獣医師が動物

病院に来院した動物と飼い主に対して「では、拝見しましょうか」とか「診せてください」という時は「診る(みる)」という字を使う。まさしく、病気の原因を探り、病名を診断し、治療するために「みる＝診る」という意味なのだ。あくまでも獣医師は、動物の病気を「診る」役目なのだ。それに比べて動物看護師が「みる」という場合は、「みる＝見る」という行為になる。「見る」という字は「目の上に手をかざしてよく見る」ということなのであり、日本語表現の「看」という字はこのように、病気であるところだけを“みる”のではなく、その動物全体を“手と目を使って、丁寧に大切によくみる”という意味を含んでいるのだ。それに加えて「護」という字の意味には、「まもる」という意味があるのであって、この二文字は看護の意味と本質をよく表している。

## 獣医師の仕事

獣医師にしか出来ないこと…診察・診断・手術・予後判定



病気を  
診る

動物の病気を診るのが獣医師



# 動物看護師の仕事

動物看護師にしか出来ないこと…



米国カリフォルニア ホスピスケアセンター  
「Bright Heaven」にて

動物の  
全体を

# 看る

動物全体を看るのが動物看護師



3) あなたの「看護」のイメージとはどのようなものだろうか。

人の医療においても、看護のイメージには、①奉仕する職業 ②白衣の天使 ③看病する人 ④医師のお手伝い などと思っている人が多いのではないだろうか。

動物看護とは、この動物が、一生のうちどのステージにいて、今どうなっているのか、この段階から次にはどんなことが起きる可能性があるのか、それを予防するためにはどんなことをしたら不快な辛い思いをせずに生活できるのだろうか、という観察をすることから始まる。そこで観察をして得られた情報を整理し、問題点を見つけ出し、問題点を解決するためには、どんな技術が必要か、を考えて実践する必要がある。

一般的に人の看護師のイメージとして挙げられることが多い「看病する白衣の天使」というイメージは、フローレンス・ナイチンゲールによるところが大きいようだ。看護の祖と呼ばれるナイチンゲールは、クリミナ戦争(現在のトルコとイギリスの戦争)で、自ら戦争の看護団に立候補し、看護婦として派遣された女性である。

そこでナイチンゲールは、病室の劣悪な状況を眼にした。ナイチンゲールは、衛生的な環境、きれいな空気、明るい病室が病人の気持ちを前向きにさせ、その上、トイレを清潔にする

衛生環境の改善により、全体の衛生状態が向上したといわれている。

生涯を通じて、衛生問題の改善や貧困階級の衛生問題(英国・インド)の改善に貢献した、ということが「看護覚書(1859年)」に著されている。

その中には、「病気を診るのではなく、病人を看よ」と記され、また、「観察力がなければ、いくら献身的であっても無用である」という厳しい表現により、看護師にとって、いかに観察力が重要であるかということが表現されている。

それほどに観察するということが看護には必要なのである。



\* 最期を迎えようとしているネコに寄り添う動物看護師(米国カリフォルニア・ホスピスケアセンター「ブライト・ヘブン」)

動物看護師も人の看護師のイメージに重なるところがあり、人医療における看護の師であるフローレンス・ナイチンゲールから影響を受けていることが多い。

ナイチンゲールは、傷ついた兵士の看護をただけではなく、病人が治ろうとする力がいかに発揮されるか、環境が病人にあたえる影響力、衛生的な環境とはどういうことかを説いている。

また、ナイチンゲールは、1860年に「看護師の教育は看護師の手で」ということも提唱している。その考えの基に開始された教育方法は「ナイチンゲール方式」とも呼ばれ、全世界に広が

ることとなる。この教育成果によって、現在の看護につながっているとされ、ナイチンゲールは「近代看護の祖」とも呼ばれているのだ。

私達動物看護師も、ナイチンゲールの提唱した環境の改善、衛生的な環境が動物の健康維持にいかに重要か、ということを知っている。

人は、自らが生活する環境を求めて移動し、希望する環境を構築することが可能であるが、家庭で飼育されている動物にとっての環境の全ては、飼主によって与えられるもの、と言っても過言ではない。



“フローレンス・ナイチンゲール”女史

イラスト: 山下由理さん(認定動物看護師)

部屋の空気の入れ替え、室温の管理、床の掃除、寝具を陽に干して湿り気を無くす、飲み水を常に新鮮にしておく、汚れたトイレシートを交換するなどは、まさしく動物の生活する環境を清潔で快適にすることであるが、動物が自分でそうできるわけではない。

これら動物にとって必須の清潔で衛生的な環境は、飼い主が手をかけて保っていることになる。動物にとっては「飼い主＝環境」といっても過言ではない、と私は思っている。

動物が健康で快適な生活ができるためには、衛生的な環境を維持することが必要であるが、そのためには飼い主が動物にとって最適な環境がどのようなことであるのか、という知識を持ち、それを維持してくれるようにならねばならない。

このような事に気が付き、動物の健康な一生を維持するためにはどのような技術が必要なのかを学ぶためには動物看護師による飼い主教育が必要となる。

また、動物看護師が飼い主を指導するためには、その技術も必要となるのだ。このような時に必要となる「クライアントエジュケーション(飼い主教育)」や「コミュニケーション能力」については、動物看護技術で学ぶ。



\* 慢性腎不全末期の猫を看護する動物看護師(米国カリフォルニア ホスピスケアセンター「Bright Heaven」)

人の看護においてはナイチンゲールのほかにも、バージニア・ヘンダーソン女史が指導者として名前があがる。

ヘンダーソン女史は「看護の基本となるもの(国際看護師協会刊、1961年)」のなかで看護とは何かを明確に示した。この中で、看護とは「病人であれ健康人であれ、各人が健康あるいは健康の回復(あるいは平和な死)に資するよう行動するのを援助すること」であると述べている。

また、その人が必要なだけの体力と意志力と知識とを持っていれば、これらの行動は他者の援助を得なくても

可能であろう、とし、更に各人ができるだけ早く自立できるように助けることもまた看護の機能である、としている。

看護活動の多くは単純であるが、特定の患者の特定の要求にそれを合わせる時に複雑な行動となり(個別性を重んじる)、看護師の第一の責任は、患者の日常の生活パターンを保つのを助けること、すなわち普通は他者に助けてもらわなくてもできる行動を助けることであると述べている。

日常生活の“ふつうの行動”が自力でできるようにすることこそ、自立をさせるということにつながるものであり、看護は、援助するだけでなくその先には、必ず自立する、という目的を掲げるものである、としている。

では、動物の「自立」とはどのような状態をいうのであろうか。  
このテキストの中では、動物の自立とは「その動物が本来の生態系にあった形態で、日常生活に必要な活動が自分でできること」と定義しておく。

先に紹介したバージニア・ヘンダーソンは、看護を必要とする人の基本的ニード(要求)として、14の要求を挙げている(「人間のニード論」)。表にして示す。

そして、この人間の基本的ニードを「看護師が援助すべき、あるいは患者が助けなしに自分一人で行えるような状況を作り出すべき患者の行動」とし、ニードに対応できるように患者の行動を援助することを基本的看護である、とした。

このヘンダーソン女史が提唱する日常生活行動パターンは、14項目のうち10項目は動物にも当てはまるものと思われる。これを基にして、イギリスの Hilary Oepet 及び Perdi Welsh 原著「動物看護実践ハンドブック」にも著されている「アビリティーモデル」が作成されていると思われる。

1	正常に呼吸する
2	適切に飲食する
3	あらゆる排泄経路から排泄する
4	身体の位置を動かし、また良い姿勢を保持する
5	睡眠し休息する
	適切な衣服を着脱する
7	体温を生理的範囲内に維持する
8	身体を清潔に保ち、身だしなみを整え、皮膚を保護する
9	環境の様々な危険因子を避け、他者を侵害しないようにする
10	自分の感情、欲求、恐怖あるいは気分を表現して他者とコミュニケーションをもつ
⑪	自分の進行にしたがって礼拝する
⑫	達成感をもたらすような仕事をする
⑬	遊び、あるいは様々な種類のレクリエーションに参加する

14	正常な発達および健康を導くような学習をし、発見をし、あるいは好奇心を満足させる
----	---

上記 14 項目のうち、○印数字表した項目4つは人の場合にのみに適用されるものであるが、動物看護の場面でもその他の 10 項目を「アビリティー・モデル」とし、動物看護を実践するための観察項目として、イギリスの Hilary Orpet 及び Perdi Welsh 原著：桜井富士朗先生監訳の「動物看護実践ハンドブック」の中に挙げられている。

#### 4) 動物看護の基本を考える

動物、飼い主にとってどうあるべきか。

そのゴールは何か、を考える。

動物看護のゴールとは何かを考えてみよう。

- ① 安全な獣医療を提供すること。安全な医療が受けられることは、動物と飼い主にとって最も優先されるべきことである
- ② 安心が得られること。安全は私達が与えることであり、それによって動物と飼い主が安心を感じるのである。安全は与えることであり、安心はそれを受ける側が結果として感じるものである。個別性のある安全を考慮した治療を受けることができた対象者は、それを安心と感じる。それにより安らぎと共に信頼を覚えるのだ。
- ③ バージニア・ヘンダーソンが表わしてきた 14 項目のうち、動物に適用される10項目を、「動物看護実践ハンドブック」(Orpet&Jeffery のアビリティーモデル 2007)では「患者動物は以下のことができるか？」ということで、アンケートをとり観察をしている。これらの10項目は、動物が動物らしい生活をする上で必要となる日常行動である。これらが動物自らができることにより、自立しているとみなす。

## 動物看護の基本

患者動物、飼主家族にとってどうあるべきか

そのゴールは何か



安全な獣医療が  
受けられる



個別性のある治療により  
動物看護対象が安心である  
と感じられる獣医療



日常生活に必要な  
活動が自分でできる



動物看護の対象となるステージについて前述したが、その中にある「健康」という言葉を省みてみよう。

世界保健機構とは、人間の健康を基本的人権の一つと捉え、その達成を目的として設立された国際連合の専門機関（国連機関）である。以下、英語で WHO (World Health Organization) する。1948 年 WHO で定義されたもので、「健康とは、完全に身体、精神及び社会的に良い(安定な)状態である事」を意味し、単に病気でないとか、虚弱でないということではない。病気でないこと、心身健やかで、不快な点が無いとが合わさってこそ健康が確立できる。



\* (猫のてんてんちゃん)

写真の猫を見てみよう・・・目がキラキラとしていて目ヤニがない、両眼の瞳孔が同じ大きさ、鼻に分泌物がなくピンク色、パッドもピンク色で艶々している、などが健康の印である。

WHO で定義された健康を維持することも看護技術のいったんであるが、動物と人とのこころの橋渡しができるのも動物看護師であり、動物と家族を思うところが動物看護を豊かにする。

現在家庭内で飼育されている動物達のそのほとんどが、家族の一員として迎え入れられている。

動物達の幸せは、その飼い主の幸せにつながり、動物看護師は、動物だけでなく、その飼い主のことも対象に動物看護を実践していく。まさに動物と人との橋渡し役となることができるのが動物看護師と言えよう。



動物と飼主家族を思う**こころ**が動物看護を豊かに  
動物とヒトとの**こころ**の橋渡し



#### 5) 動物看護の対象を考える

動物看護の対象とするものは、動物看護を必要としている動物のみならずその動物と共に生活している飼い主に対しても当てはまる。

その動物がその動物らしく生きること、家族が豊かで平和な人生を送ることを支えるのも動物看護であるべきであろう。

その時々動物のライフステージの健康状態と共に、飼い主も一喜一憂するものである。家族の一員となった動物たちは、今や飼い主にとって共に暮らす子供や孫にも似た存在価値となっていることが多い。動物の痛みや苦しみは飼い主にとってもイコールの感情と成り得る。

写真は、モルモットのみかんちゃんと飼い主。飼い主の70代男性は、難治の疾患を持つが、みかんちゃんの朝晩のお世話をするようになったことで、健康を取り戻そうとする気持ちの向上を持つと共に、触れれば温かい対象であるみかんちゃんを“兄弟”と呼ぶようになったと言う。みかんちゃん健康管理は、他の家族により維持されている。



\* シャンプー後、長毛部にリボンを付けたアビシニアン種モルモットのみかんちゃん和飼主(2015年現在74歳)

#### 6) 動物看護師の視点とは何かを考える

動物看護師のプロの視点でみられるようになることが必要である。動物看護の視点では、動物の一生においてその動物が今、どんなステージにいるのかを見極められることが必要である。動物が病んでいる時だけではなく全てのステージにおいて補助すること。どのステージにいるかを見、動物看護師としての観察力で観察し、今後を予測する。その観察でわかったことの中から問題点を把握し、その問題点を解決する事を目的として対応し、処置を実践する。また、その内容はその動物と飼主にとって最上最適な内容であることが重要である。

そのためには、飼主の気持ちを察することができる人であることが動物看護師に必要で、コミュニケーション能力が動物看護技術として必要となる。

また、動物看護師に最も必要とされるものは、状況を正しく判断し、どんな技術が必要とされているのかを知ること。この場合には個々の動物の環境と生活を理解し、その内容が動物のためになっているのかどうか不利益になっていないかということ動物看護師の観察力で判断できる力が必要である。

## 動物看護師の視点とは



2004年 「人と動物との関係学会」  
グラスゴーの学会で会場にて、講師犬とユーザー

### 動物が病気の時だけでなく全てを補助する

- ①今、その動物は一生のライン上のどの時点にいるのかを考える
- ②動物看護師としての観察力で観察し、予測ができる
- ③患者動物の問題点を拾い出し把握できる
- ④レベルにあった対応と処置を実践できる

### その動物と飼主家族に最上な内容であること

- ①飼主家族の気持ちを察することができる人
- ②コミュニケーション力があること
- ③適切な、人との接し方を知っていること

### 動物看護師に最も必要とされるものは

- ①眼の前の動物と飼主家族の状況を正しく判断し、どんな動物看護技術が必要とされているのかが理解できる
- ②個々の環境と生活を理解し、個別性を考慮できる
- ③現状を観察分析し、患者動物のためになっている処置ができていのかを考えられる力



7) 動物看護を実践する時に、動物看護師に求められていることは何かを考える

獣医師の視点は、診断と治療での場面が対象となる。現状を診断、病名を決定し、その原因を考察する。必要に応じて検査を指示し、治療方針を決定、考えられる予後を推測した上で、内容は飼い主に知らされ、獣医師の一方的な提示ではなく、飼い主が獣医療に参加することによって今後の方針が決定されていく(インフォームドコンセント)

動物看護師の視点での看護とは、動物が病気の時だけでなく全てを補助し、その内容が動物と飼い主にとって最上な内容であるように実践すること。

特に治療期間では、その動物がその動物らしい生活を送ることができるように配慮が必要となる。そのためには、なぜ、その動物らしい生活を送ることができないのか？できないのは何が原因か？などを観察によって抽出する。

また、闘病する動物の飼い主への気遣いが必要となる。特に長期の闘病治療が必要となる慢性疾患の場合には、重要だ。

特に難治の疾患を手元において見守らねばならないような環境では、刻々と変化する(悪化する)動物の苦しみや痛みと直面せねばならない。そんな場合には、せめて動物病院に来

院している間だけでも気持ちが安らぎ、休息がとれるような環境を提供する、といったような気遣いが必要となるだろう。

動物看護師は観察により現状を的確に判断し、適切に対処できる能力を持つことが必要となる。そして、その看護技術を常に鍛錬して向上させる努力をし、終生研鑽する義務を持つ。様々な場面で人間関係をスムーズに保てるよう、また、悩みを抱える人を慮る(おもんばかり)気持ちを持つ配慮が必要とされる。

## 看護をする時に動物看護師に求められていること

### 動物看護師の視点

**看る動物の看護**  
\*受診動物の看護において

- ・診察時
  - ・検査を受ける動物
  - ・治療を受ける動物
  - ・飼主家族へ
- ・療養期間
  - ・その動物らしい生活を送ることができないところは？
  - ・闘病する看る動物の飼主家族への気遣い

・現状を的確に判断⇒適切に対処できる能力を持つ

・技術を鍛錬して習得する努力

・さまざまな場面で人間関係をスムーズに



米国のカリフォルニア ホスピスケアセンター「Bright Heaven」にて終末期の看取を行う動物看護師と、飼主動物を

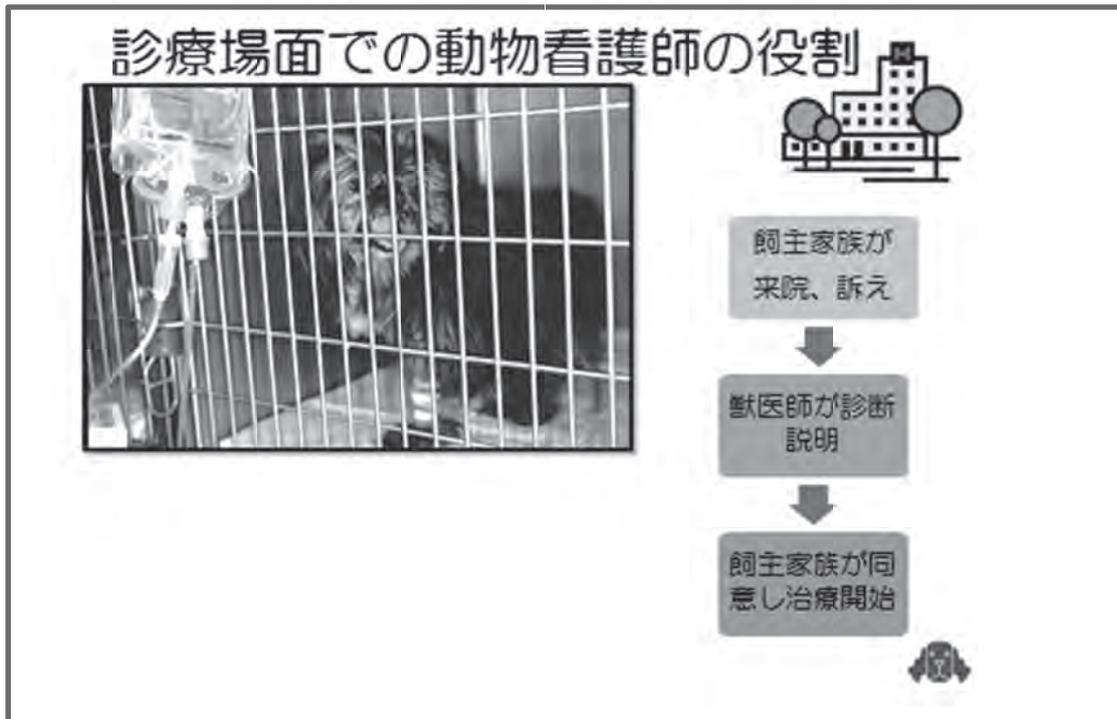
### 獣医師の視点⇒診断と治療



現状を診断  
病名を決定、原因を考察  
治療方法の決定  
予後の推測  
インフォームドコンセント



## 8) 診療場面での動物看護師の役割について考える



診療場面での動物看護師の役割を考えてみよう。動物病院には動物の飼い主が来院し、その動物の状態を訴える(稟告、問診)。それを念頭において獣医師が診察し、診断をするために検査が必要な場合には、適した検査の準備を指示する。

検査は動物看護師が実施することが多く、獣医師は、その結果を踏まえて診断し、家族に説明する(インフォームドコンセント)。その内容に飼い主が同意して治療は開始されることになる。

さて、では治療対象であるこの犬には、何がどのようにわかっているのだろうか？

もしも私たちが、全く言葉が理解できない見知らぬ国に連れて行かれ、優しい動作や笑顔で話かけられたりしたとしても、言葉の意味がわからない、他の動物の鳴き声が聞こえてくるような環境に閉じ込められた時にはいったいどんな感情を持つだろうか？そして、いきなり体の自由を束縛され、点滴や手術がはじめられたらどう思うだろうか？

・・・この写真の犬の場面も、そんな風景が見えるような気がする。では、私たちは言葉が通じない未知なる世界にやって来てしまったこの不安だらけで恐怖を感じているであろう犬に対して、どのような態度で接したらよいのだろうか。

この犬はこんなことを訴えているのではないだろうか・・・「ボクが症状を訴え、説明を聞き、納得して入院、手術をしたわけではアリマセン。身体的苦痛や抑制、知らない環境下で家族と別れて入院し、見知らぬ仲間とスゴサネバナラナイ」。

きっと「ここはドコ？あなたは誰？なぜここにいるの？ナニをしたの？」と思っているのではないだろうか。

こんな状況の犬とあなたが分かり合うためには、共通言語でコミュニケーションをとることが必要となる。まずは①名前を呼ぶこと ②笑顔で話しかけること ③挨拶をすること(犬流の行動学にのっとった方法で)。

ここで一つ面白いエピソードを紹介しよう。ある外科を得意とする獣医師が、手術を担当し成功した犬のケージの前で言った「お前は、ぼくの手術のおかげでこんなに良くなったのに！なぜ、そんなに僕の顔をみると吠えるんだ！そんなに憎らしいのか！」と。せっかく手術し助けた犬から、いつも吠えられてしまう、と訴えてきたその先生に私の回答は「先生、きっと先生はとても怖い顔で話かけているのでしょう。今度、その犬の悪口を笑顔で言ってみてください、きっと、その犬はおこらないと思いますよ」でした。

数日後、その獣医師はニコニコしながら報告してくれた。

「“お前はブスだねえ”とニコニコ笑顔で言ってみたところ、とても喜んでしっぽ振ってくれましたよ」と。

9) 続けて診療場面での動物看護師の役割を考える。

動物が安全な診療を受けられるために行動する。そしてその内容が、安心と感してもらえるようにする。

安心とは、実施者が思うことではなく相手が結果として評価してくれる言葉である。

安心と感してもらえるためには、

- ① 動物の個別性をよく考慮したうえで情報の収集により身体的・精神的な、環境の、問題点は何か、を考える
- ② 獣医師からの指示を正確に実施できる
- ④ 観察によって発見した問題点は獣医師に報告、連絡、相談をすること
- ⑤ 動物看護診断は問題点を抽出し、それを解決することを動物看護の目的にすることもあ  
る
- ⑥ 動物看護診断は動物看護計画にそって実施する

## 診療場面での動物看護師の役割

患者動物が 安全な診療を受けられるために。  
そしてそれが 安心と感じてもらえるようにしたい



動物の個別性を  
よく考慮して

- ①情報の収集により、身体的・精神的・環境の問題点は何かを知る
- ②獣医師からの指示を正確に実施できる
- ③動物をよく観察し、症状や経過を記録・報告・連絡
- ④問題点は報告・連絡・相談
- ⑤看護診断とその実施は計画的に、看護計画に沿って実施



\* カートを付けて走り回る犬(カリフォルニア:ブライトヘブンにて)

### 10) その他の場面での動物看護師の役割について考える

診療場面以外での動物看護師の役割を考える。動物への配慮とともに、飼い主への気遣いも動物看護師が担当することになる重要なものである。

## その他の場面で：動物看護師の役割



### 飼主家族に対して

動物への配慮とともに、飼主家族への気遣いも  
動物看護師の担当分野

来院時の気持ちを察する  
不安な気持ち  
悩み、緊張、恐怖

獣医師の説明が理解できているか？  
インフォームドコンセントがされているか  
飼主家族は方針に納得できているか  
遠慮なく自分の意見を言えているか  
重病や難病と知りショックを受けてはいないか  
獣医師からの指示が生活環境に合っているか  
指示内容が無理な注文になっていないか

動物に高度で適切なケアを提供すること  
ケアの焦点は全体的なアプローチ  
動物看護師が家族へのケアをするようになったことは重要



まず、飼い主の来院時の不安な気持ち、悩み、緊張や恐怖を察して接する。以下のことについて観察をする・・・獣医師の説明が理解できているのか？インフォームドコンセントがされているか？その結果で行動できているか？飼い主は治療方針に納得できているのか？獣医師のみの意思ではなく、遠慮なく自分の意見や都合を言え繁栄できているのか？重病や難病と知り、ショックを受けてはいないか？獣医師からの指示が生活環境に合っているのか？指示内容が無理な注文にはなっていないか？

以上を観察し、必要ならば助言ができるようになりたい。

獣医療で第一に優先させるべきことは、治療を必要としている動物にとって最適最上な治療であること。動物の健やかな一生を全うするために必要とされているものか、また、飼い主が患者動物に対して適切な行動ができているのか、を観察して指導できることが必要である。

飼い主との適切なかわりかは、動物が治ることができるための最重要点と言える。

私たちはいつでも動物が健やかで苦しい思いをしない一生を送れるよう行動できるために、飼い主に感心を持ち絆をつくる必要がある。

#### 11)「インフォームドコンセント」について

「インフォームドコンセント」は、飼い主が説明を求め、その求めに応じて獣医師が説明をし、その中から飼い主が選択できる(同意もしくは拒否)決定権がある、とする考えを原則とするものである。

どのような処置であっても、なぜその処置が必要なのか、行う目的と必要性、その処置によって何が期待できるのか(効果)、また、それによってもたらされる利益のみならず好ましくない影響がある場合には不利益についても、獣医師は飼い主に説明する。

また、この説明は説明する相手(飼い主)の理解に合わせて行われることが大切であり、飼い主は提示された内容を十分に理解した上で、それを実行するかどうかを選択することになる。提示された処置手段が複数あるのであれば、その中から選択については来院した一人の飼い主だけではなく、家族全員の意思の決定が必要となる場合が多い。

また、その処置が対象動物にとって命にかかわるような選択の場合には、特に家族全員の意思決定をしてもらうために十分な時間を取る必要がある。

獣医師や動物看護師は、動物に計画した処置の説明を行うだけを目的とするのではなく、飼い主の考えや希望についても積極的に聞く姿勢を取り、その要望を尊重しながら動物のために方法を考えていくことが必要になってくる。

獣医療の世界のみならず人医療においても長い間、医師の患者への説明義務や、患者自身が納得した上で自分の意思で主体的に医療を選択できることの重要性は言及されることがなかった。そればかりか、医師の決定は絶対的なものであるかのような風潮がありがちで、医師からの申し出や処置方法の決定を患者が拒否することはタブーとされがちであった。あらゆる申し出に対して「お任せ医療」が通常であるかのような意識があった。

しかし、1960年代以降、人医療の在り方が大きく変化し、1975年には、「ヘルシンキ宣言」にインフォームドコンセント指針が盛り込まれることとなった。

また、1981年の「リスボン宣言」では、診察を受けるすべての患者にインフォームドコンセントが必要であることが訴えられ、医師の説明義務と患者の自己決定権が保証された画期的な内容となった。

日本国内においては、日本獣医師会の「インフォームド・コンセント徹底宣言」が1999年9月14日（会長：五十嵐幸男）に発表された。

以下、宣言文から一部抜粋し、紹介する。

（全文は巻末に、

I：日本獣医師会・獣医師会活動指針—動物とヒトの健康は一つ、そして、それは地球の願い・—

II：日本獣医師会・獣医師倫理綱領 獣医師の誓い—95年宣言  
と共に、参考資料として提示する）

日本獣医師会の「インフォームド・コンセント徹底宣言」

（1999年9月14日 記者発表）

1：日本獣医師会では、このたび、獣医師および獣医師会にたいする社会の信頼をたかめ、より適正な動物医療を提供するため、全国の獣医師が一体となった「インフォームド・コンセント徹底宣言」を行います（略）

2：動物たちが家族の一員として位置づけられるようになるとともに“ヒーリング”といった役割をにないつつあります。それにもなつて動物医療の重要性が高まり、より適正かつ手厚い医療がもとめられています（略）日本獣医師会では獣医師および獣医師会に対する信頼をたかめ、より適正な医療を行うため、全国の獣医師が一体となった「インフォームド・コンセント」を宣言することにいたしました。

3：「インフォームドコンセントの徹底」とは、まず獣医師と飼い主とのコミュニケーションを深めるため、ペット動物の病気に関する説明、その病状、治療方針、予後、診療料金などについて十分に説明を行い、了解を得て治療などを行うとともに、各種診療情報を積極的に開示するというものです（略）

4：（略）インフォームドコンセントの徹底宣言は、そうした実情を踏まえながら、より開かれた医療、適正な獣医療サービスの提供をめざすものです（略）

このように、国内におけるインフォームドコンセントの意識は、すべての人医療従事者及び獣医師それぞれの役割において意識すべき原則として普及している。

では、動物看護師のインフォームドコンセントにおける役割について考えてみたい。動物看護師は、獣医師が行う診療に関するインフォームドコンセントを聞き、それを助けるだけでなく、動物看護の実践を動物に適切に最良の方法で実践できるように動物看護計画を立て、その

内容を飼い主に説明できることが必要となる。

また、その動物看護内容について飼い主の要望や意見を聞き、動物看護過程に飼い主の参加を促し、動物の動物看護自体や動物の変化等について関心を寄せてもらえるよう指導することが役割と言えよう。

## 12) 動物看護師に必要とされるもの

動物看護師養成機関では、動物看護技術を習得する授業のみならず獣医学的な知識として、疾病に関することや解剖生理学、公衆衛生などの科目を勉強する。学生時にはなぜ、獣医師だけではなく動物看護師も疾病についての勉強が必要なのか、と疑問に思うことがあるかもしれない。

しかし、動物看護師にとって獣医学的知識は、同じ獣医療チームの一員として獣医師が記入したカルテの内容が理解でき、診断・治療の意味がわかるために必要となる。

また、疾患のある動物を看護する前に必要な情報として、①動物種による特徴 ②動物の年齢毎の特徴 ③疾患に関係する臓器の解剖生理・機能 ④疾患の原因・症状・発生機序・予後 ⑤疾患の診断・治療・検査の内容と目的 ⑥疾患に通常行われている治療方法・目的・内容・効果と基本的な看護 ⑦手術内容と術後の合併症・予想経過 ⑧薬物の効果と副作用 以上が必要となる。

# 動物看護師に必要とされるもの



動物看護師に獣医学的知識が必要な訳

- ※ 獣医師により記入されたカルテ内容が理解できるため
- ※ 獣医師による診断・治療の意味が理解ができるため

疾患のある動物を看護する前に必要な情報

- ① 動物種による特徴
- ② 動物の年齢毎の特徴
- ③ 疾患に関係する臓器の解剖生理・機能
- ④ 疾患の原因・症状・発生機序・予後
- ⑤ 疾患の診断・治療・検査の内容・目的
- ⑥ 疾患に通常行われている治療方法・目的・内容・効果と基本の看護
- ⑦ 手術内容と術後の合併症・予想経過
- ⑧ 薬物の効果と副作用

獣医学的動物看護学ハンドブック 付録  
日本獣医生命科学大学獣医学部附属動物看護学専攻  
「はじめに」 2018



ここでは一つの事例を挙げて「動物看護師に必要とされるもの」を考えてみよう。



\* 18 歳 ミックス、♂、ハリー(米国カリフォルニア:終末医療ホスピスケア施設:ブライトヘブン)

自分で動けない、ケージの中で寝たまま排泄、噛めない、リンパ腫、70 代の女性が一人で世話

「今、この犬に必要な動物看護技術はなんですか」

写真を観察して得た情報を元に常に考える。

そして、病気のある動物の看護を行う時、疾患の経過の今後を予想できるためには獣医学的な疾患の知識、解剖生理学などから考えられる、動物看護の実践を計画できる能力が必要となる。

事例:18 歳、雑種♂ハリー君。自分で動けない、ケージの中で寝たまま排泄、噛めない、診断名はリンパ腫。家族は 70 歳の女性。このほかに、スライドの写真から読み取れる情報を得て、ハリー君の動物看護診断、動物看護計画と実施を考える。常に、実施した看護に関しては、評価をし、そぐわない時にはやり直しをする。

これらのことを心で思っただけでは、どのように実践し、何から開始したらよいか不明確であり、本当にそれはこの犬にとって最適なものなのかが判明できないままでは、最適な

動物看護を実践することができない。では、どうしたらよいのか？

### 13)まとめ

苦しみや辛さを持つ対象に対して、共感する心を持ちこれに寄りそおうとする心が看護である。この気持ちを形にするためには達成させるための実践が必要であるが、実践する時にはその目的、対象を定めて実践できる具体的な技術(方法)が必要となる。

最適な実施ができるためには、まずは現状を把握するための観察により多くの情報を収集し(後に学ぶ SOAP 方式)、これによって集められた内容を整理判断できる知識が不可欠となる。また、動物に対して「何かをしてあげたい」という想いを可能にできる技術が必要となる。これらを漫然と実施しているのではなく、明確に整理し表現しているのが「動物看護過程」である。



\* 手術入院のためステンレスケージに入れる。大型犬の入院時には起立して頭が挙げられること、体の向きを変えられるスペースがあることが必要。

## 第2章 動物看護過程の展開

### 動物看護過程を学ぶ必要性について考える

#### 1: 動物看護過程とは何か

1) 動物看護の目的について、改めて振り返ってみる。

動物看護の目的とは、すべての生活ステージにおける、その動物の一生を支える(お世話)ことであり、個々の動物と飼い主の状況を理解し、個別性をふまえた内容で実施できることが必要である、と学習した。

また、動物が本来持っている自然治癒する力が発揮されやすい環境を整えることにより、動物の生態系にあった行動ができ、健康の維持と増進、疾病の予防、健康の回復、疼痛のコントロールなど、「5つのフリーダム」に代表されている動物の福祉にかなった生涯を全うすることができるように関わることを目的として、動物看護は実践される。

まさに「動物看護者の倫理綱領」前文「動物も人と同様に、自らの存在を尊重され、健やかな生活を送ることを願っている。しかし、動物たちには言葉が無く、直接人間に訴えることはできない。人間は、動物たちが人間に何を望んでいるかを常に考え、動物たちの思いに応えなければならない(以下省略)」に、このように記されているように言葉を持たない動物たちの思いを慮って(おもんばかって)行動することになる。

「言葉を持たない動物たちの思いを慮って(おもんばかって)」行動できるためには、動物の様子や行動を観察し、対象動物にとって必要なことは何かを見極め、対応できるための手段・方法論が必要となる。まさしくこれが動物看護過程と言えよう。

みなさんが、動物に対する想いを形にしたい(何かをしてあげたい)と思う心そのものが動物看護であると思う。しかし、対象や目的、何が最適な内容であるか、現状はどうなっているのか、今後どうなるのかなどが明確化されていない状態で実施されたのでは、その内容が最適であったのか、または今の反応が何によっておきてきたのかなどの因果関係がわからないままである。

その結果、動物にとってその実施が益のあるものであったのか、そしてその内容がだれによっても再現できるものであるのか、など不明確な状態のままとなる。

そうではなく、動物看護師が高順化された継続的な看護を実施し、記録に残すことによって他の人が継続して実施できる方法であり、またその実践した内容を振り返って評価できているのが、動物看護過程なのである。



\* 母猫に甘える子猫。まさに、弱く自活できない者を慈しみ見守る姿がここにある(中山様ユリアちゃんと子猫)

## 2) 動物看護過程の構成要素を考える(5つ)

動物看護過程では、まず情報を収集し、その情報が持つ意味を解析してそこから動物に今見えている様子(顕在:けんざい)と、その下に隠されている(潜在:せんざい)健康上の問題が何か、を明らかにする。そして、この問題を解決するために何が必要なのかを抽出して、対処するための動物看護計画を立て、実践し、評価を行う経過をたどることになる。

これによって、動物看護を実践する人が、修得している知識に基づいて動物が必要としていることに的確に対応できることになる。動物を観察することにより、動物看護によって解決できる問題点を拾いだし、解決するために系統的、組織的に実践する。この場合に、一人が単独で行うことではなく、獣医療の場ではチーム獣医療として組織的に実践でき、また、家庭では飼い主によって安全で効果的に実践してもらえるような指導ができるよう、コミュニケーション能力も必要な技術になる。

この技術は、動物看護に必要な情報の収集、解釈、問題の予測と確認、計画立案、実施、評価から成り、実践されるものとなる。

動物看護過程の構造を本書では、①アセスメント ②動物看護診断(問題の拾いだし) ③動物看護計画 ④実施 ⑤評価 の5段階として考え、学習していく。

### ①アセスメント

動物看護過程の最初のステップであるアセスメントでは、動物看護を必要としている動物、すなわち個々の動物に対して体系的な情報収集をし、それを整理して分類判断をすることが

ら始まる。

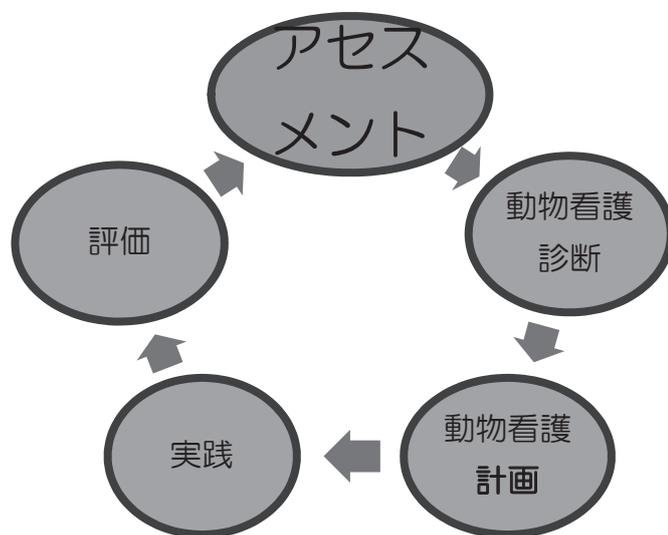
最適なアセスメントにより効果的な看護過程を作成実施できるようになる。アセスメントの段階では、動物の現状を把握することが大切であるが、あらゆる知識を集約し、活用して現在の症状の結果、その後に隠れている潜在的な問題点が具現化(顕在化)することに留意し、推測できることが重要である。

ここから得られた情報から動物がかかえている悩み、問題点、しなければならないことなどが明らかになるため、的確な行動がとれるためには出来る限り多く、正しい情報が必要である。集めた情報は、ある枠組みを用いて分類し整理して活用する。

この方法のひとつが「SOAP 方式」であり、これを使って正確な情報を収集できるようにする。

つづいて、集めた情報が持つ意味について考えている必要がある(情報の分析、解析)。現在、どのような状況なのか(現状の様子)、その状況がなぜおきたのか(原因)、このままの状態が続くと、次にどのようなことがおきてくるのか(なりゆき)を分析していくことがアセスメントである。

収集する情報は、動物自身についての事(種類、年齢、避妊手術の有無、性格、身体検査内容)、カルテに記載されている飼い主の情報、獣医師による診断と治療内容、さまざまな臨床検査の結果などによって収集し、整理する。



\* (「動物看護実践ハンドブック 桜井富士朗:参照)

動物看護過程の基本は観察、アセスメントであると述べてきた。アセスメントを実施せねばならないが、いったいどんな情報をどのように収集したらよいのだろうか？

これをわかりやすい手順で、次の担当者が記録を読んだ時に、理解しやすいように整理して記録に残すことが可能にしたのが SOAP モデルである。

このアセスメント方法は、Hildegard Peplau によって、精神医学患者の発展的ケアモデルとして初めて記載されたとのことである。（「動物看護実践ハンドブック 桜井富士朗監訳、P20）

SOAP モデルは人医療の看護記録を作成するのに広く活用されている方式である。

S は主観的情報であり、動物はどこが悪いのか、に対して飼い主の言葉や動物の鳴き声などを記載する。O は客観的な情報であり、観察してわかったこと、各検査結果や診断テストの結果、データなどを記す。

このアセスメントは、理解・判断をするもので、主観的評価と客観的なデータにより考えられる動物看護上の問題点と、そこから考えられる動物看護目標、動物看護計画などを記載する。

P は計画と実施した内容を記録として残すことにより次回担当者に理解してもらえるようにする。

## アセスメントのSOAPモデル

「動物看護実践ハンドブック 桜井富士朗 監訳」

S	Subjective	主観的	動物はどこが悪いのか（例：跛行、下痢、嘔吐）飼主家族から聞いたこと、動物が鳴いた声の解釈など（痛そうに鳴いた、など）
O	Objective	客観的	観察した事、各検査、診断テストの詳細な結果＝データ
A	Aseessment	理解・判断	主観評価と客観的なデータに基づいて考えられる看護上の問題点とそこから考えられる看護目標、看護計画。観察と情報収集から理解したこと、判断など。
P	Plan	計画・実施	担当獣医師に相談し、指示を受け、今後の看護計画や実施したことを記録として残す。

情報収集：情報源は  
 飼主家族＝最も動物の事を知っている人物  
 動物＝非言動的な行動観察による  
 スタッフと関係者＝獣医師、動物看護師、受付係など



\* 動物看護実践ハンドブック（監訳 桜井富士朗；インターズー）

## ②動物看護診断

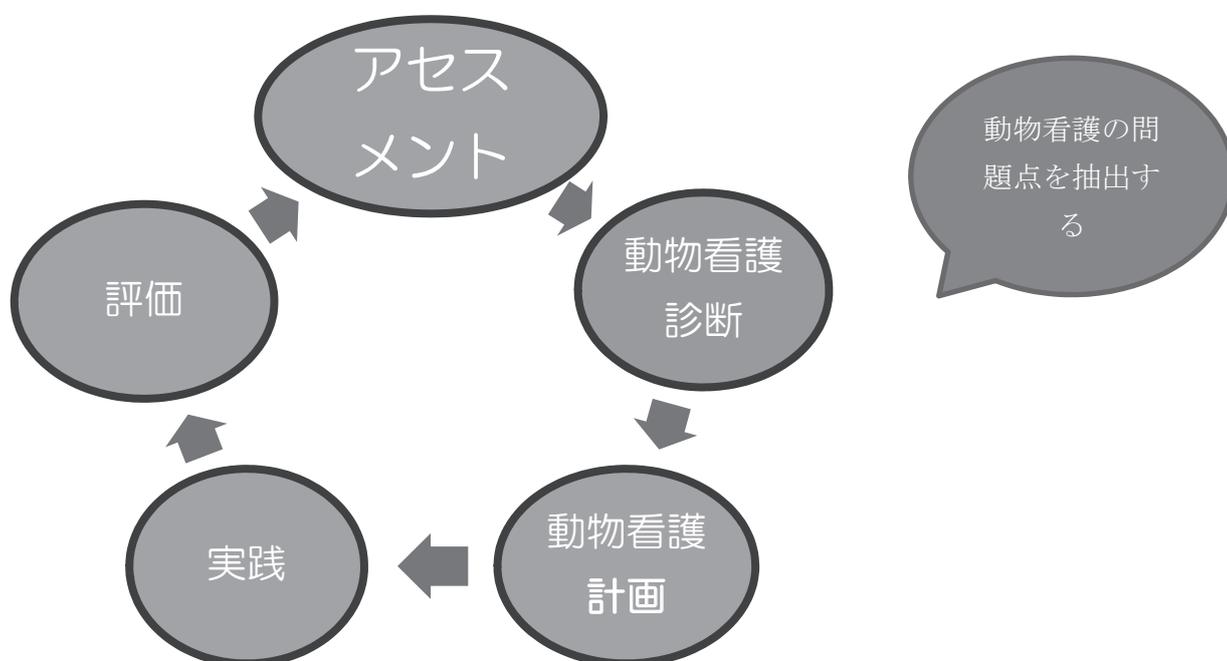
アセスメントの次は動物看護診断。動物看護の問題点を拾い出す段階と言ってもよい。アセスメントの結果をもとに、動物看護として解決すべき問題(動物看護問題)を明らかにしていく段階を動物看護診断(問題点の拾い出し)となる。

この、動物看護診断を的確なものとするためには、正確なアセスメントが前提となる。この場合、動物に起きている問題は、現時点で存在する問題だけではなく、これからおきるかもしれない問題についても取り上げる。複数の問題が想定できる場合には、その動物にとって解決すべきものが何なのか、という優先順位を判断することも必要となる。

診断という言葉は、獣医師の特権のように感じるが、動物看護診断とはアセスメントの段階で収集した情報により、現状の動物にとって何が問題なのか、10項目のアビリティモデルに当てはめたアンケート(聞き取り)によって得られた内容から「今、この動物にとって何が問題なのか」を拾い上げ、それができるようにするためには何をどのように実践していったらいいのか、を判断することである。

このように、動物看護診断と、獣医師による診断の相違について理解したい。

この看護診断により判明した問題点は、看護の目的(ゴール)となりえる部分である。動物が現状で「何ができて、何ができないのか」を知り、なぜそれができないのかを拾い上げていくためには、「Orpet と Jeffery のアビリティモデル 2007」を活用できるので、次にこれを紹介する。



\*「Orpet と Jeffery のアビリティモデル 2007」について考える(「動物看護実践ハンドブック 桜井富士朗 参照)

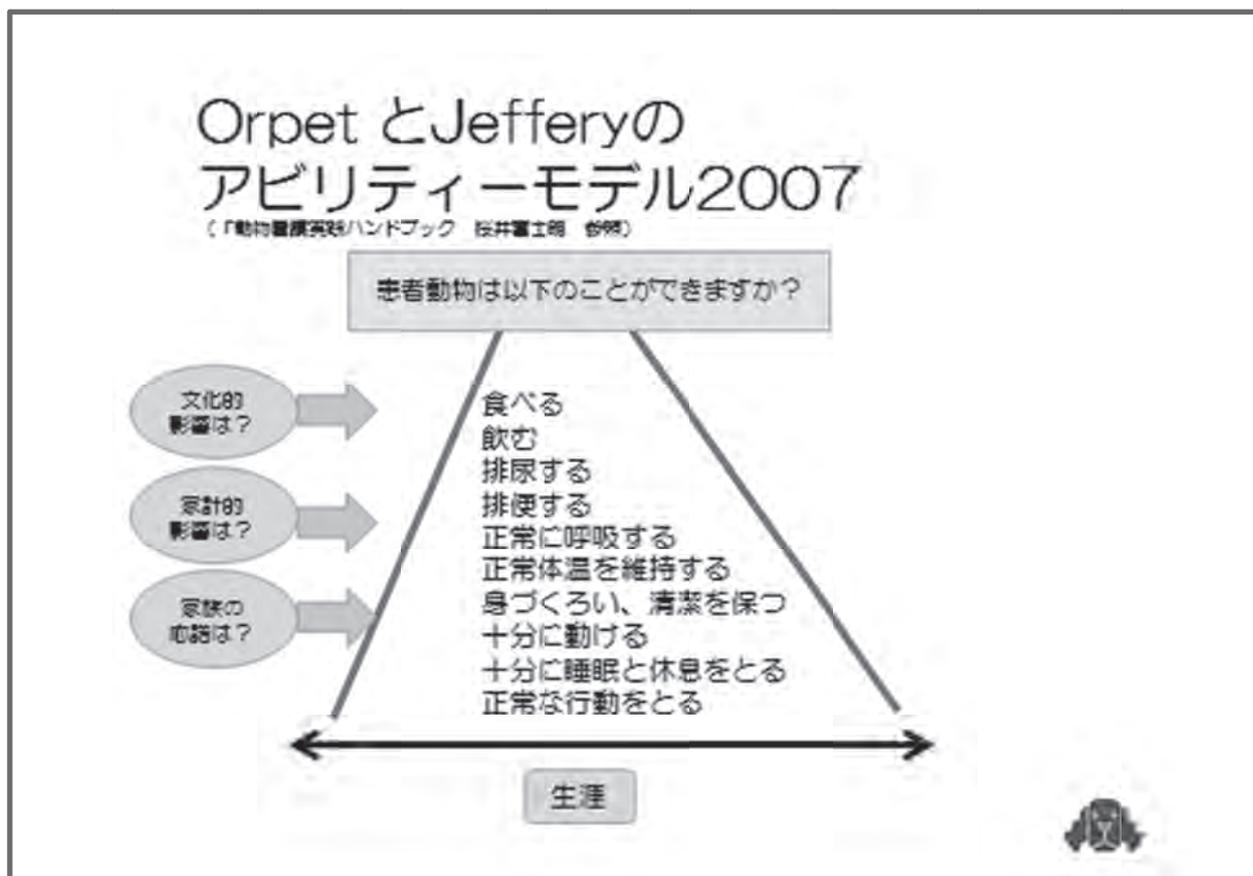
◆アビリティモデルの実行について述べる。

ここで紹介されている Orpet と Jeffery によるアビリティモデル(2007)は、Roper, Logan, Tierney の生活活動モデルと、Orem のセルフケアモデルを利用して作成されている。アセスメントの段階で動物が今どんなことができ、できない問題がどこにあるのか、という能力(アビリティ)に焦点をあてている。

このモデルに沿って作成したアセスメントを元にして、現状の動物看護問題を拾い出して、この問題点を解決するための動物看護目標を立て、動物看護計画に沿って実行することになる。

この10項目に沿って入院時の飼い主への質問をしたり、アセスメントをする際に決められた手順で順序よく情報を得るために有益な表となる。

質問するためには質問事項に抜けがないように順番を決めて行うと良い。この項目に沿って実施することに慣れるために、今後も繰り返し練習が必要となる。チャンスがあるたびに、この点の確認をしたい。



\* 動物看護実践ハンドブック(監訳 桜井富士朗;インターズー)

初診動物の飼い主への聞き取り(問診)時、質問用紙として準備しておく項目を聞き逃す

ことがなく、整理できる。質問の仕方は、「はい、いいえ」の一回のやり取りで終わってしまわないような様々な情報を引き出せるような内容にする。

「食欲はありますか？」ではなく、「どんなフードを食べていますか？ 一日に何回食でしょうか？」など。

質問シートを実際に作成し、事例を用意して練習するとよいだろう。

動物看護に関する知識は通常、経験豊かな動物看護師と獣医師の診療中の動作や会話の中で観察により得られる。観察によるアセスメントを実行し、それを記録として残すことにより動物看護診断や動物看護計画に通じる。

また、診療の中では動物看護料として料金をいただける対象ともなり得る。

以下の事ができますか？	飼い主家族への質問	質問の要点
十分に食べることができるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段食べているものは？</li> <li>・どのくらいの量を何回？</li> <li>・どんなタイプの食器で？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段食べているものに戻す</li> <li>・栄養必要量をだし体重の維持</li> <li>・特に猫は材質により好みがある</li> </ul>
十分に飲むことができるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段飲んでる量は？</li> <li>・どんな方法で水を飲んでいる？</li> <li>・どんな水を飲んでいる？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従飲水量は、普段の食物の形態により影響される</li> <li>・飲水ボトル？皿？水道蛇口？</li> <li>・水道水？蒸留水？加工水？</li> </ul>
正常に排尿できているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段どこで排尿している？</li> <li>・コマンドをきっかりに排尿している？</li> <li>・排尿時に問題があるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外だけか？室内トイレだけか？散歩時？特定の素材の上でないといけないか？</li> <li>・訓練された動物</li> <li>・関節炎や可動域現象は排尿方法に影響を与える</li> </ul>
正常に排便できているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何回/日？</li> <li>・普段どこで排便している？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのくらいの頻度で排便するかは食事内容により異なる</li> <li>・排便排便の場所の好みがある</li> </ul>
正常に呼吸できているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸に問題があるか？</li> <li>・寝ている時いききはするか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に関連した呼吸異常は基礎疾患の可能性あり</li> <li>・顔形状により呼吸困難の条件あり</li> </ul>
正常体温を維持できているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒そうですか？</li> <li>・寒い時の散歩はどのように？（洋服を着るなど）</li> <li>・普段どこで寝ているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼齢、高齢期動物は、体温保持に問題があることがある</li> <li>・寝る時に暖かい場所を好むか？冷たい床を好むか？</li> </ul>

\* 動物看護実践ハンドブック(監訳 桜井富士朗;インターズー)

以下のことができますか？	飼主家族への質問	目的の根拠
自分でグルーミングし清潔か？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段自分でグルーミング（身づくろい）できているか？</li> <li>・飼主家族はどのくらいの頻度でグルーミングやシャンプーしている？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に猫は健康状態のバロメーターとなる</li> <li>・長毛動物は飼主家族によるグルーミングが必要</li> </ul>
運動能力は十分にあるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行に問題があるか？</li> <li>・車に（段に）飛び乗る、飛び降りるがスムーズか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者動物が自分で歩行できている時の評価。</li> <li>・特に高齢動物の日常の動作は関節炎や可動域狭小に結びつく</li> </ul>
睡眠や休息を十分にとれているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段、24時間のうち何時間くらい寝ているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終日監禁できないが、家人不在時は以外と寝ていることが多い。種やかに寝ていられることは痛みや呼吸困難がないことが推測できる</li> </ul>
正常な行動をしているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避妊去勢手術をしているか？</li> <li>・悪逆の発露はいつ？</li> <li>・家人以外の人や動物に友好的？</li> <li>・好きなおもちゃがある？</li> <li>・コマンドで行動するか？</li> <li>・視覚や聴覚障害があるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未手術動物は性ホルモンに関連する行動を示すことがある</li> <li>・攻撃的な性格か？友好的か？を知ることは治療にも重要。ただし、飼主家族が正しい情報を提供するかどうか要注意</li> <li>・使役犬はコマンドで行動できる</li> <li>・特に高齢犬の場合に必要な情報</li> </ul>

(監訳者：「動物看護実践ハンドブック」31-32、インターズー 東京 印刷)

\* 動物看護実践ハンドブック(監訳 桜井富士朗;インターズー)

### ③動物看護計画

次は動物看護計画である。動物看護計画は、動物のためにアセスメントした情報の中から問題点を拾い出し、その問題点を解決するためにはどうしたらよいかを設定し、これを達成するためにはどのような対応(行動)をすればよいのかということを考え出すことである。

動物看護診断であげた動物看護上の問題の一つひとつに対し、その問題が解決された時にはどうあって欲しいのか(例;後肢膝関節炎のために痛みがあつて起立不能な高齢犬が、運動療法によって痛みが和らいだ時には、大好きな庭でリードを付けてゆつくりと歩けるようになりたい)という飼主が「期待する成果」を定めると良い。

この「期待する成果」は、ただ単に飼い主が一方向的に「そうしたい」と無理な高いハードルを目的とするのではなく、対象となる動物にとって無理な実行ではなく、的確で望んでいるであろう事を推測して対応したい。

飼い主は、ともすると過大な成果を求めることがあるので、動物看護師は冷静に観察することによって収集できた情報(S,O)に基づいて計画が立てられると、飼い主からの信頼も得られるだろう。

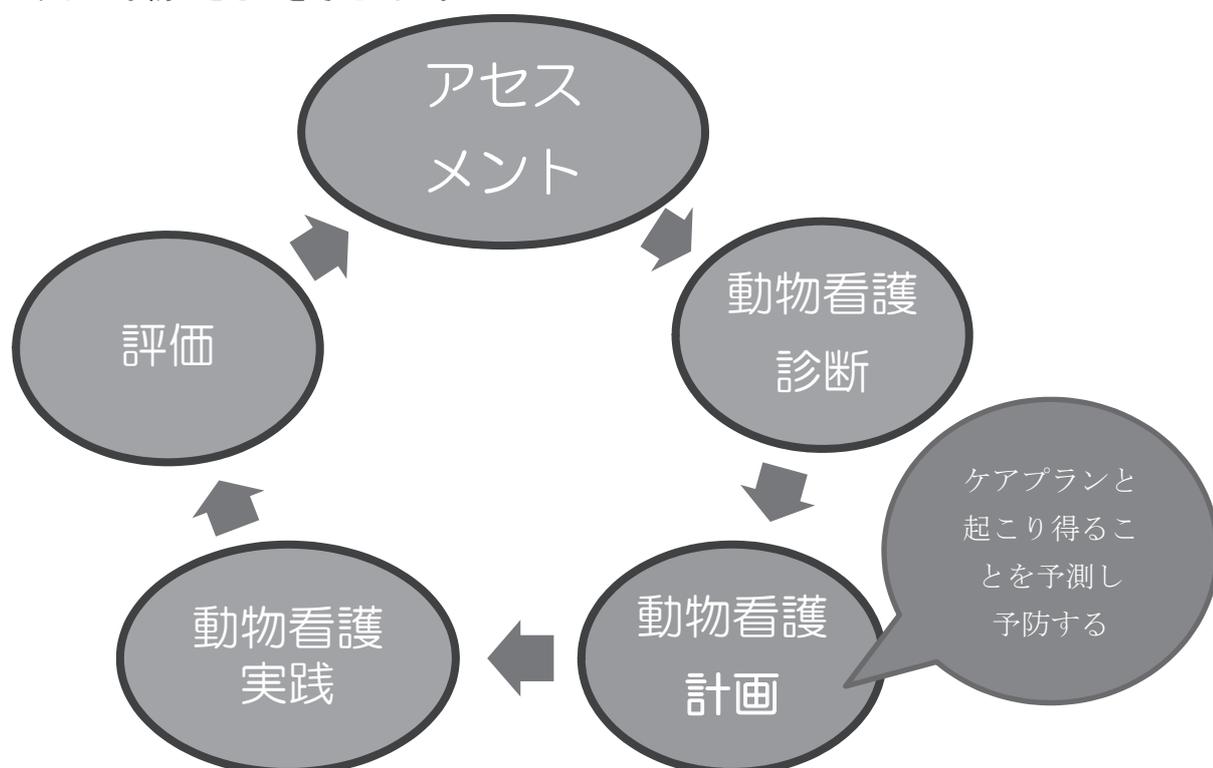
その動物が、一番元気で輝いていた頃の生活様態を飼い主に聞き、性格を教えてもらって好物や気に入っていた散歩の場所、生活パターンを思い遣りながら、期待する成果目標を立てられると良い。

そして、期待された成果が達成された時には、次の成果に到達できるように動物看護計画を立てる。

動物への看護は、獣医療における治療や処置と同様、どのように対応するか、対応したかが誰にでもわかるよう記載することが大切である。

また、今すぐに対処せねばならないことと、それほど緊急ではないが必要な事項、とを判断して確認し、自ら優先順位をつけて実施をする。

そして今後、この状況から予測できる二次的におきるかもしれない症状(事態)について、どのようにすれば予防できるかを考えておく。



\* 動物看護実践ハンドブック(監訳 桜井富士朗;インターズー)

#### ④動物看護の実践

次は実践である。実践は動物看護計画に沿って実際の動物看護活動を提供していくこと。動物看護計画を実行に移す部分。実践した後には、必ず実施内容とその時の対象動物の反応を記録しておく。

ここで実行されたことは常に評価されなければならない。どのような技術を提供し、どのような対応をしたのか、その結果どのようなことがおきたのか、現状はどうなのか、など誰もが正確に記録し、その時の担当者が不在であったとしても次の担当者が理解できることが必要となる。そして、実行した結果が適正なのかどうかを評価し、適正なのであれば評価と実行を繰り返す。

## ⑥ 評価

実践した動物看護は必ず振り返りをし、評価をする。

評価の結果、その動物に最適な看護が実践できていなかった場合には再びアセスメントに戻り、問題点を抽出して看護計画を作り直して実践をする。全ての行為には必ず評価が必要である。

## 3) 動物看護記録

動物看護師が行う記録を動物看護記録という。現状では、動物看護記録について法的な定めはないが、各獣医療現場において独自の判断の元、数年の保管がされているものとなる。

動物看護記録とは、動物に実践された動物看護の一連のプロセスを記録したものの総称である。動物看護実践の記録は、動物看護師の思考とその行動・行為・対処を示すものであり動物看護実践の内容に関する記録は、チームの中での他業者との情報共有や、実践の継続内容に有効なだけでなく、実践したことの評価および、その質の向上に加えて、動物と飼い主の情報管理と、開示が必要になった際の貴重な資料となる。

そのため、動物看護師は必要な情報を効率良く、活用しやすい形態で記録する技術が必要となる。

(1) 動物看護記録の目的と意義についてまとめる。

- ① 動物看護実践の内容を明らかにする(動物看護師の動物看護業務内容の記録として、適正な実践が行われていたことを証明するものとなる)
- ② 動物看護が必要な実践の根拠を示す
- ③ 獣医療チーム間及び動物とその家族、動物看護師の情報交換の手段となる
- ④ 動物の身体状態、健康状態や病的症状、獣医療の提供経過、およびその結果に関する情報を提供する
- ⑤ 動物におきた問題、必要とした実践、その実践に対する動物の反応や飼い主の感情や意見、様子などを記録する
- ⑥ 動物看護実践が、その動物病院施設内で実施された時には、獣医療の診療報酬(動物看護料金)の発生要件を満たしていることを証明できる
- ⑦ 動物看護実践の評価や質の向上及び実践技術の開発研究の資料とする

以上の中で、動物看護の最大の目的と考えられるのは、動物看護過程の展開においてどの実践が、対象動物と飼い主にとって適正であるか、ということを実証するために記述として残す必要がある。まさに、動物看護過程の展開すべてのプロセスを動物看護記録として残すことが、動物看護師の職域として何が実践されているのか、また、いかに心砕いて動物にせっているのかを表すものとなる。

言葉を持たない動物は、自分に向けて実践された動物看護の内容を、他の動物看護師や家族に伝えることができないのだから、記録として残し、他者に伝えられるように計らう必要があるのだ。

The image shows a 'Hospitalization Record' form from VMSG (Veterinary Medical and Surgical Group). The patient's problem list includes 'Acute on Chronic CKD', 'NNN Anemia (secondary to CKD)', and 'Vomiting, Weight Loss'. The form features a grid for recording treatments and monitoring over a 24-hour period, with columns labeled every 2 hours from 6 AM to 4 AM. Handwritten notes and checkmarks are present in the grid cells, indicating when treatments were administered or monitoring was performed. The form also includes sections for 'Doctor's Orders' and 'Monitoring'.

\* 入院ケージの前に設置された入院中の治療指示と継時的処方(米国 LA VMSG)

これらは全てのスタッフが各入院動物を把握するための情報となると共に動物看護記録の情報元である。

## (2) 動物看護記録の留意点

- ① 動物看護記録への記載内容は、獣医療従事者間の情報共有のためや、情報開示に備えるために、他者に理解しやすい内容であること。
- ② 簡潔であること。状況がよくわかることが基本
- ③ 動物看護記録の訂正について。記載を誤り、やむを得ず訂正を行う場合には、訂正前の内容、訂正者、訂正日時がわかるようにする。けっして修正液で消滅したり、塗りつぶしな

どで前の内容がわからないような処置はしないこと。記録の改ざんともとられるような行為をしないこと

- ④ 記録管理。情報が第三者にさらされることのないように努める必要がある。
- ⑤ 守秘義務。個人情報保護法の観点からも、動物看護師が職務上知り得た情報を第三者にむやみに教えることはしてはならない。カルテ上に記載された内容は、決して他者に知らせてはならない。

### (3) 記入時の注意点

- ① 収集した情報や見た事実は、出来る限り速やかに記録する。
- ② 自分が見たことを正確簡潔、明瞭に記載する
- ③ 観察した時刻、その時の症状、処置内容など事実に基づき記入する。事実をそのまま記載し、思い込みや憶測、想像など曖昧なことは書かない
- ④ 面積、大きさ、数などを表す時には数値で表すか、共通の表現で表わす(例:鶏卵大、米粒大、テニスコート大など)
- ⑤ 重複を避け、獣医療従事者共通に認識されている専門用語、カルテ内記入に使用する略語、記号などを適宜活用する
- ⑥ 読みやすく丁寧に適切な文字形で書く。
- ⑦ エンピツではなく、ペンで書く
- ⑧ 重要な事柄は目立つ工夫をする。表や図など、効果的である
- ⑨ 記入した内容に責任を持つために、署名する
- ⑩ アセスメント時に使用した「SOAP モデル」を活用して記録すると整理しやすい

S(Subjective date)・・・主観的情報;動物の訴え、飼い主による動物の観察情報、獣医師や動物看護師による観察

O(Objective date)・・・客観的情報;身体検査の所見、血液検査など臨床検査データ、獣医師によるレントゲン読影結果、超音波検査など各種検査結果

A(Assessment)・・・評価・判断;各種情報を集め、そこから解釈判断して問題抽出する

P(Plan)・・・計画;評価や動物看護診断に基づき、抽出された問題点を解決するためにはどのように看護技術を提供し対応していくのか

(4)動物看護記録の事例 (例:名前〇〇〇〇、避妊メス猫・14歳、雑種)

名前	〇〇〇〇	病名	リンパ腫	♀・S・F	年齢:14歳	Mix.
・年月日 ・時 分	・実施内容	・観察したこと ・気づいたこと ・感じたこと		・動物看護計画 ・次の予定		・記入者サイン
・2014/5/5 ・7時30分	・Telあり	・毎日ではないが、食後に嘔吐する。食欲はある。その他変わった点はない。出勤前に連れて行くので夕方までに検査して欲しい				e.m (印、イニシャルなど)
・9時	・お預かり	・バスケット内で、怒っているので出さずにケージに入れる		・検査のため夕方までお預かり。連絡先は携帯に。		e.m
・11時	・診察 ・BW 3.2kg ・T39.0 ・P250 ・R 不明 ・BT(生化学、血球) ・X-ray ・US ・生検	・バスケットの中で威嚇していたが、診察台上でエリザベスカラー装着しバイタルチェック実施 ・頸静脈より採血(山下 Vet.)は抵抗なく実施 ・レントゲン撮影(田中 Vet.) D-V,V-D,La。保定時に腹部触れると嫌がる ・US 検査と生検(腹部:石田 Vet.)		・X-rayとUS 検査結果により腹腔内に直径3cm程度のマスあり ・生検によりリンパ腫診断が出たので、飼主にTel連絡 ・あまりにも威嚇しているので、入院治療を考え一旦帰宅させることにする		e.m
・13時	・担当獣医師から飼主にTel	・リンパ腫の治療についてインフォームドコンセントをするために予約確認		・獣医師の方針を伝える ・化学療法の有効性について伝える ・アロマ療法やホリスティック治療の有効性について質問があった ・AH 嫌いなのでなるべく自宅療養を希望している		e.m

・14時10分	・観察 ・ペットシート交換	・ペットシートに排尿あり。正常色 ・エリザベスカラー装着のままケージ内にいるので飲水不可能 ・タオルに血痕あり(1円硬貨大) ・タオル交換(白いタオル) ・採血部位と生検のための針跡を確認する	・獣医師に報告し、出血可能性のある部位の確認をした ・出血継続無のため、ケージに戻す ・夕方まで様子を見て、出血なければNP ・飼主と今後のリンパ腫プロトコールについて相談し、なるべく嫌がらない通院方法を考えましょう	e.m
・17時25分	・持参のフードを置く	・エリザベスカラー装着のままですずかに猫座り ・まぐろ味のレトルトパックを皿に盛るが、興味無	・自宅での食欲を観察してもらおう ・食べた後の嘔吐があるかどうか。嘔吐があるようならば、絶食にして点滴が必要になるか、獣医師に相談	e.m
・19時40分	・飼主からTEL	・21時過ぎのお迎えに来る。 ・院長が直接飼主に病理結果、レントゲン、US 結果を話す予定	・今後の通院について飼主にも負担にならない方法の提示ができるようにしたい	e.m
・20時 5分	・観察 ・タオル交換 ・エリザベスカラー汚れ清拭	・嘔吐あり(黄色液体) ・タオルの上に液体の多い嘔吐物あり。獣医師に報告し、エリザベスカラーを外して清拭する ・朝ほどの怒りの勢いはない	・一端自宅に戻すが、嘔吐が続くようであれば今夜でもよいので入院を勧めるようにする	e.m

#### (5) 基本情報の収集

一般的な基本情報は、初診時に飼い主がカルテに記入した飼い主の住所、名前、緊急連絡先などと共に、同居動物の有無や種類、子供や高齢者が同居しているかどうか可能な限り記入してもらう。

動物についての基本情報は、生年月日(不明な時には現年齢)、不妊手術有無、動物種、品種、主訴、来院理由の原因、経過、既往歴などを質問し、回答を得る。

漏れること無く必要事項を収集するためには、質問表を準備しておく。動物看護過程のアセスメント時に活用するアビリティモデルを活用する。

#### (6)統一した内容にそった質問

言葉を持たない動物に直接問いかけることができない獣医師や動物看護師は、飼い主に、ここに来た理由を聞く。この場合に、飼い主がどこまで正しい情報を持っているのかが不明なことが多いが、正確さに欠ける内容であったとしてもそのことを責めるような態度をとることがあってはならない。質問する立場の基本は、飼い主の言う事にまずは耳を傾け、聞き手に徹することから開始する。動物看護師は、飼主に関心を寄せている様子を示し、否定することなく受け入れる態度と言葉使いが重要である。

飼い主が困惑している様子があれば、その感情に同情を示し、気持ちをそらさないように質問を続ける。質問表を活用し、質問事項に抜けが無いように進行させる。

この時、あまりしつこく深く聞きすぎること飼い主の感情を苛立たせることになるので、常に飼い主の様子を観察し、飼い主にイヤな印象を与えないように第一印象を大切にしたい。

質問をし、なるべく多くの情報をえられるためには、コミュニケーションが大切となる。飼い主は、さまざまな環境と経歴、年齢であるが、若い動物看護師より年上であることが多いので、相手に敬意を持って、失礼のない態度で接することが重要である。

コミュニケーションが取れなければ、動物看護師を飼い主が受け入れにくくなり、動物が治療を受けるために必要な家庭での処置をしてもらえない事態が起きてしまう。

例え苦手と感じる飼い主であっても、動物看護師は、治療を必要としている動物を苦しみや不快さから救えるためには我慢し、飼い主と接する必要がある。

サービス業である獣医療および動物病院では、飼い主が通院してくれることにより診療が成り立つのであり、飼い主の支払う料金によって健全な動物病院として経営が成り立っているのである、ということを認識しなくてはならない。

動物病院は企業ではない、と思っている人があるかもしれないが、動物病院はサービス業である限りは、飼い主に選ばれる動物病院の要素がなければ、経営は成り立たず、診療に必要な薬剤や設備の購入も不可能となってしまうだけでなく、雇用している動物看護師やスタッフの給料を支払うこともできなくなるのである。

サービス業で生活する者、という認識を新たにし、健全な動物病院の経営ができるよう、収益の一端を担える動物看護師として就業して欲しい。

## (7) コミュニケーションとは

### ① コミュニケーションとは何か

コミュニケーションという言葉は、ラテン語の「分かち合うこと」や「共有すること」から由来しており、つまりコミュニケーションとは、発信者から出されたメッセージを受信者と発信者が共に分かち合う、共有することである。

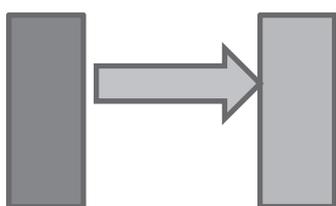
また、ここで伝えられることと分かり合えることの内容は情報だけではなく、人の感情も含んで伝えられる。

獣医療の場で行われるコミュニケーションは、症状や治療内容についての情報を伝えるだけでなく、意味と感情が含まれた情報として伝えられることが重要なのだ。

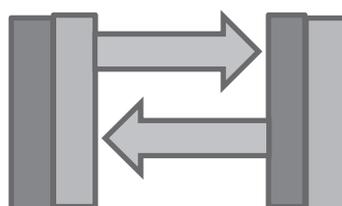
### ② コミュニケーションにおける二つの現象

情報を送り主から受け取り主へ与える一方通行的な作用だけで、マスコミによる一般市民へ伝える情報の伝達がこれにあたる。

二つ目は、双方が役割を持ち、連続してメッセージを交換するもので、双方向的な作用である。情報、感情、意味を共有する時には、相互による双方向的な作用が重要であり、相互に関わり合うことによってコミュニケーションは成立する。



一方通行的コミュニケーション



双方向的コミュニケーション

③ コミュニケーションをとる方法には、言葉だけではなく体での表現、顔の表情、声のトーンや調子などがある。動物は、産まれた時から周囲との関係を持つことを学ぶ。そして身の安全を確保するための情報収集の仕方や、危険を学ぶ。人は、アルバイトや職場での同僚との会話、共同作業を通して無意識のうちに他者とうまくやっていくための能力をいろいろと使っている。このようにして実は、動物も人も、産まれた時から周囲との関係を求めながら生活しているのだらう。

自分たちの小学校や中学校、クラブ活動や地域活動などを振り返ってみながら人との関わりについて考えてみよう。意識しない時にでも、人と摩擦をつくらず安全に平和に事を過ごせるよう関係を作っていることに気が付くのではないだろうか。

④ コミュニケーションとは何か、をまとめてみよう。

- ・人も動物も生まれた時から、コミュニケーション能力を学び続けている
- ・コミュニケーションは、視覚、触覚、嗅覚というような感覚を活用している
- ・言葉だけではなく、ボディランゲージ、声の調子というものも関係している
- ・コミュニケーションは、双方向のプロセスである

⑤ コミュニケーションの質を高める三つの方法と“聴き上手”になれる4つのポイント

“聴き上手”になることは、良好なコミュニケーションを行うのに欠かせないポイントである。うまく人の話を聴けない人は、相手との絆を築くことが難しい。効果的な聴き方をするには、理解を深めるだけでなく、共感や尊敬の気持ちを伝えて信頼を築く助けとなる。

コミュニケーションの質を高める三つの方法を知ろう。

・効果的な聴き方をする事; “聴き上手”になれる4つのポイント

1	注目する。注目とは、相手が何を話しているのか興味を持ち、その興味を表すためにボディランゲージや動作で反応を示すこと。相手の方に体を向ける、相手が話しているときには、相手を見る。うなずいて興味を相手に伝える。打ち解けた態度を示すが、腕や足を組まないで聴く。
2	話を聴く。積極的なプロセス。聴く、ということはただ音を耳に入れるだけではなく、その言葉の影に隠れたメッセージを読み取れること。
3	共感する。見方や環境で視点が異なるので、同じ気持ちになることは難しい。しかし、共感を示し、飼い主の状況を理解していることを伝えるようにする。実際的な解決策を見つける手助けを申し出る。
4	原因を探る。原因を探っていくと、相手の状況について多くの情報がえられ、相手の不安や、その不安の大きな意味を持つ理由をより深く理解できるようになる。心をこめて問いかけ、注意深く聴くことで、飼い主が動物に対して最善策をとれない原因が何か、理解できるようになる。

・効果的なコミュニケーションを使い分けるタイミングや方法を知ること

1	文字で書かれた補助資料やイラストを活用する
2	模型を使ってわかりやすくする
3	処置の手順を実際にいっしょに目の前で実施してみる
4	同じ内容であっても、いろいろな方法で何回でも繰り返す
5	理解と共感を伝えるようなコンタクトのとれる工夫をする

・メッセージには一貫性を持たせること

メッセージに一貫性を持たせるために、動物病院のスタッフごとに回答が食い違わないようにすること。誰にたずねても同じ情報を提供できるように統一しておくことが必要である。

飼い主にスタッフ全員が同じメッセージを伝えられないと、混乱や誤解とともに不信感を与えることになる。回答の食い違いはクレームにも通じることになる。動物病院からのメッセージをわかりやすく理解して貰えるための手段としても必要となる。飼い主からの質問があった場合には、同じ内容のコメントができるようにマニュアル作成も必要であろう。複数のスタッフがいる場合には、ミーティングや引き継ぎにより情報を共有しておく必要がある。しかし、動物の個体や環境によって個体差があるので、必ず差が生じることがあるということを忘れてはならない。

複数のスタッフが働く動物病院では、時間や曜日によって担当者が異なる可能性が大きい。いつでも同じ人がいて、同じ顔を合わせていることばかりが良いのではなく、他の担当者になっていたとしても同じ内容を知っていてくれる、「うちの仔のことを知っていてくれる」という感覚は、飼い主への安心にもなり、また、その動物病院内のコミュニケーションの良さを象徴することにもなるのだ。

また、その逆は大きな期待を裏切る行為と不信感を招くものになる、ということ覚えておきたい。

⑥ 対人能力とは？

対人能力とは、非言語コミュニケーション、話しを聴くこと、評価を受けたり逆に評価を行ったりすることなど、他者と関係を築き、共に働くために必要な能力。効果的なコミュニケーションを行うために必要な能力を総称した言い方である。

どのように話しをするか、どのように話しを聴くか、どのように他者の望みに応え、手助けができるようになるか、などのこと。

相手に自らを受け入れてもらうためには、笑顔と挨拶が重要であろう。特に動物病院の受け付け業務の際には、「あなたを受け入れます」という印の笑顔の挨拶が重要である。

笑顔は重要な技術である。TPO に合わせた笑顔での対面が必要なのだ。

#### ⑦動物看護技術としてもコミュニケーション能力

悩み(疾患)を持つ動物が治るためには、その飼い主と獣医療担当者との間に良いコミュニケーションがなければならない。特に直接飼い主と関わることが多い動物看護師は、信頼してもらうことによって治療や処置の協力が得られる、ということを理解しておかねばならない。

そのためには第一印象と飼い主や一般社会が持っている既成概念的スタイルが大切であることを理解しよう。

#### 4) 評価

飼い主が期待した成果(対象動物が望んでいることでもある)に到達できたのか、動物に実践してきた動物看護過程を必ず評価する。

個別性を考えてアセスメントから実施してきた動物看護過程が、動物および飼い主への利益となる結果が見えていなければ、今回開始した動物看護過程の現状を再アセスメントしてやり直すこととなる。

もし、現状で適切で有効な結果が与えられているのであればこの展開は評価と実践を繰り返す。もしも動物看護問題が解決されていなかったのであれば、アセスメント、動物看護診断、動物看護計画、実践のどこに原因があったのかを検討し、修正を行う。

また、現状に合わせた成果の変更、獣医師による診断の見直しが必要となることもある。

動物看護過程に沿った実践ではあるが、日々の変化により実践した内容を評価して変更することが必要であることを理解しよう。

動物看護過程の展開は、各自の経験や体験、知識など先入概念にとらわれることなく、あくまでも対象となる事例に対して個別性のあるオリジナリティーのある展開であることが必要となる。

#### 5) 動物看護過程を用いることの利点

##### (1) 対象動物と飼い主にとっての利点

動物看護過程では、動物の身体的情報、既往歴、食事内容、家族や生活環境、などについて幅広く情報を収集することになる。また、飼い主の年齢や家族構成、生活パターンはもちろんであるが、国民性や宗教観、経済状況、価値観や過去の動物飼育経験などが動物に大きな影響を与えることになる。

いふならば、動物にとって飼い主は環境そのもの、と言っても過言ではないと思う。伴侶動物となった動物たちは自分の意思や決定ではない生活や行動を要求されることになり、飼い主によって与えられた“環境“や生活パターンの中で生涯を過ごすことになる。飼い主によって造り出された“環境“が、動物たちにとって快適であるかどうか、健康に生活す

るために有益なのか有害な要素を含んでいるかどうか、によって動物の生涯が影響される。

アセスメントによって収集された情報により抽出された問題点解決のために実施される動物看護実践は、その対象動物と飼い主のニーズに合った個別性のある行動でなければならない。

さらに、動物看護過程の展開、流れを記録として残すことにより、他の関係者(獣医師、動物看護師など)と情報共有が可能となり、継続的な行動を提供することができる。

ひいては、個別性のある動物看護の実践ができることにより、飼い主、動物との間に信頼関係を築くことが期待できる。

## (2) 動物看護師にとっての利点

動物看護過程の展開をすることで、動物看護師は常に自分の行動を振り返り、この実践がこのままでよいのか、なぜこうなっているのかということ、憶測ではなく事実に基づいて考える力と、動物看護過程を展開する力を伸ばすことができる。

このことは、動物病院の中で、動物看護師という存在が必須のものであることを再認識させ、客観的な評価を通して獣医療チームの中での価値と、対象動物と飼い主が抱えている動物看護問題が解決されるカテゴリーを実感できることにもなる。

また、自分が実践した結果を客観的に評価することは、動物看護師という職業に対する価値観を高めることにもなり、さらに仕事への意識向上へとつながっていく。

動物看護問題を明確にすることと、動物看護計画の段階において、動物看護師が飼い主の気持ちに寄り添い、自分の問題としてとらえ、動物の健康回復や、快適な生活と生活の質の向上のための行動に添うことができるようになるであろう。



\* 術後動物の観察をする動物看護師(米国 LA VMSG)

### 第3章 動物看護師の倫理綱領について

#### 「動物看護師の倫理綱領」2009 日本動物看護職協会 動物看護師の倫理綱領について考える

動物看護職協会は、国内で初めての動物看護職の全国団体として発足した(2009 年)。この協会は、職能団体(注:特殊技能や資格を必要とする職業によって組織されている団体)として活動を始めることになるが、まず取り組んだことが「動物看護師の倫理綱領」の制定であった。

倫理綱領は、自らの行動を自ら律するものであり、倫理は道德の規範となるもので、綱領はその要点を示すものとされる。

獣医師法や獣医療法によって職域や行動、身分を保証されている獣医師とは異なり、現在の法律上に「動物看護師」という文言さえない動物看護師にとっては倫理綱領を持つことがプロとしての第一歩であると思われる。

この倫理綱領の中には、前文をはじめとする 15 条の綱領が著されている。倫理綱領は、動物看護師の心得であり、行動を示す指針でもある。動物看護が必要とされるさまざまな場面で、いろいろな予想を反することが起きた時に、まずは自分の経験や知識によって判断しようと考察するわけだが、どのような行動をしたらよいか判断に迷った時こそ、この倫理綱領に心を移して、動物看護師としてどのように行動すべきなのか、と問いかけてみて欲しい。

自分の気持ちに正直に、相手(動物や家族)のことを考えて行動したいという気持ちがまずは倫理なのであり、動物が大好きで大切にしたい、辛く悲しい思いをさせないためにはどのように行動したらよいか、という誠実で優しい気持ちを基本に行動していれば動物の専門職として迷うことがないのであろう。

しかし、諸条件や環境の違いによってそういう思いがそのまま行動に起こせない時には、自分の倫理に反する事を考えなければならないこともあるだろう。

そんな時にこそ、「動物看護師の倫理綱領」に立ち戻って、初心の頃に帰って自分の行動方針を立てて欲しい。

そうすることの積み重ねによる動物看護師各自の行動が、飼い主をはじめとする動物医療関係者や一般社会に理解され、信頼を得て動物看護師という職のステイタスが得られるのだと思っている。

自ら努力を重ね、行動を律して真摯な態度で誠実に職に向かう姿勢こそが、近い将来「動物看護師」が公的に認められるための手段ではないだろうか。

本書では、「動物看護者の倫理綱領」の全文を掲載し、綱領15条を1条ずつ解説していく。

## 動物看護者の倫理綱領

一般社団法人 日本動物看護職協会により 2009年12月発表

### 前文

動物も人も同様に、自らの存在を尊重され、健やかな生活を送ることを願っている。しかし、動物たちには言葉はなく、直接人間に訴えることはできない。人間は、動物たちが人間に何を望んでいるかを常に考え、動物たちの思いに応えなければならない。

動物看護者は、動物の看護を業務としていて動物医療の最前線で活動する専門職である。

動物の看護は、多様な環境に存在する多様な動物種を対象として動物の健康の保持と増進、病気の予防と動物医療の補助に努め、動物たちが健やかな一生を全うするように援助することを目的としている。

日本動物看護職協会の『動物看護者の倫理綱領』は、動物医療施設における看護の対象となる家庭動物のみならず、学校飼育動物、教育、研究用実験動物、産業用動物、さらに野生動物等を対象とするあらゆる場で動物看護を実践する専門職の行動指針であり、自己の実践を振り返る際の基準を提供するものである。また、動物看護について専門職として引き受ける範囲を社会に対して明示するものである。



\* 北海道斜里郡小清水町 中山牧場で飼育されているホルスタインの様子。

大切に飼育され衛生的な管理のもとミルクが生産されている産業用動物。

寿命を全うし、終生飼育されることは無い経済動物とも言われる立場の動物である。現状ではこのような産業動物の管理及び診療の場で動物看護師が活躍している場面は希少であるが、産業動物についての知識を習得しておく必要が出てきている。



\* 家庭で飼育されているドアーフ種のウサギ(ラッピー君約6歳)。終生飼育を目的とした伴侶動物としてのウサギは動物看護の対象でもあるが、犬や猫と異なる生理を持つためエキゾチックアニマルとしての知識が必要となる。

## 綱領（条文）

1. 動物看護師は、動物の生命、動物の権利を尊重し、動物福祉の向上に努める

動物看護師は、言葉の無い動物が、人間に対してどんなことを訴え望んでいるかを理解して行動せねばならない。あくまでも擬人化して、人がその環境にいる時に望むであろう事を推測して実行するのではなく、動物がその生態系にあった行動ができるために必要なことはどんなことなのか、どんな環境を必要としているのかを見極めて提供できることが必要となる。「5つの自由」を基本とした動物の福祉についての考えを常に忘れずに行動したい。

\*「5つの自由」1960年代にヨーロッパで産業動物の飼育方法を改善し、限られた期限の中で生きる「食べる命」に対する福祉を考えるためのもの。

1; 飢え渇きからの自由 2; 不快からの自由 3; 痛み、疾病からの自由 4; 恐怖や抑制からの自由 5; 正常な行動を表現する自由



\* モルモットの親子(生後4日目) エキゾチックアニマルとして人気のモルモット。



\* 放牧中の馬(北海道斜里郡清水原生花園)



\* 生後2週齢のホルスタイン。雄は1カ月ほどで肉用育成牛として出荷される。  
出産後、母牛から絞った初乳は哺乳瓶で子牛に飲まされその後の乳は出荷用となる。  
(北海道網走小清水町:中山牧場にて)

2・動物看護師は、看護の対象となる動物および看護及び看護動物の飼育者に対して等しく誠意をもって対応する。

動物看護師は、自分の感情や好みに当てはめて飼い主や動物を区別して対応してはならない。来院する飼い主と動物に対して、身なりや思想、地位や経済状態など様々な条件による区別をしてはならない。一つ一つの対応に、細かな心遣いと配慮を誠心誠意に行うことにより動物看護師個人はもとより、その動物病院への評価をいただけることにもなり、飼い主の満足により動物は動物病院に連れて来てもらえることにつながる。飼い主の通院モチベーションが高まらねば、動物の持つ悩み（症状）は解決することができない。

3・動物看護師は、看護動物の飼育者との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供する。

動物は、人の言葉を持たず自ら訴えることができないため、飼い主の観察によって初めて受診をすることができる。飼い主は、動物病院に信頼を持ち、大切な動物を任せられると思った時に託してくれることになる。獣医師はもちろんであるが、動物看護師が窓口となって接することが多い場で、飼い主との間に信頼感が無ければ悩みを持った動物が来院できるチャンスが無くなってしまうことになる。

また、飼い主の失敗や見逃したことによる障害や病気であったとしてもその行為に対して責めることが無く、気遣う心配りが必要であり、決して責めるような言動をしてはならない。常に飼い主に対して誠意を持って接することにより、飼い主は動物看護師に正直に心を開き、悩みを相談するような関係になれるのである。



\* 1年間のパピーウォーカー終了し、入学式 2009年5月末:アビーちゃん相澤さん一家



\* 飼い主と犬がカフェでつろぐ微笑ましい風景(プラハ)

#### 4. 動物看護師は、看護動物の飼育者の知る権利及び決定権を尊重する。

動物看護師は、獣医師から提示された診断やその他の情報によるインフォームドコンセントによって決定される治療方針や動物の今後の環境が、その動物にとって不幸でなく幸せで最適なものとなっているかどうかを観察できることが重要である。そのためには、飼い主が獣医師からの情報の提供について理解ができているか、質問がきちんとされているか、遠慮なく伝えられているのか、など飼い主側に立って知る権利や決定する権利を尊重する。

#### 5. 動物看護師は、守秘義務を遵守し、業務上知り得た飼育者並びに看護動物の情報の保護に努め、また、これを他者と共有する場合には十分な配慮のもとに行う

動物看護師は、動物病院に来た動物と飼い主に関わる情報について知ることが多くなる。飼い主の家庭環境、経済状況、家族構成などプライバシーについて知るチャンスが多いが、診察上で知り得た個人情報、第三者に対して漏らしてはならない。カルテに書かれていることは決して他者に教えてはいけないし、電話による他者からの問い合わせにも応じてはいけない。家族以外から預けている動物の容体や入院の有無などについての問い合わせにも応じていることは危険であるので、もし家族が不在時などに他者から問い合わせがあるような時には、このような情報をカルテに記載し、スタッフ全員が共有できるようにしておく。家族が不在になるために動物を預けているような場合、他者

から動物を預かっているかどうかの問い合わせに応じることは、家族が不在であることの証明をしてしまうことにもなり、重大な責任を負うような事態にもなりうる。外部で話題にしたり、待合室にいる他者に聞こえるような行為をしてはならない。このような光景を眼にしてしまった他の飼い主からは、不信感を得ることになる。また、カルテや動物看護記録などの管理に十分留意する必要がある。「個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法) 2007 年施行」は、個人情報取扱事業者に該当するので、動物病院のデータは法に則った管理をすることが義務となる。

6. 動物看護師は、対象となる動物の看護を行う状況が阻害されているときや危険にさらされているときは、その動物を保護し安全を確保する。

動物看護師は、人の言葉を話すことができず自ら悩みを訴えることができない動物の味方となり、動物の危機を察し、予防し、できれば救ってあげられる立場でありたい。動物の立場を配慮し、愛護と適切な管理ができていかどうかを判断する必要がある。そのためには「動物の愛護及び管理に関する法律(動物愛護法)」の理解が必要である。動物が飼い主の意思決定によって今後の生活や治療方針を決められることになるが、その内容が動物にとって不利益に不幸になっていないかどうか、に気を配って欲しい。獣医師の治療方針が苦痛を与える結果になるということが明らかにわかっている場合や、動物看護診断に反するような実施の場合には、獣医師とも情報を共有し、意見を交えることが必要となる。また、動物の不幸を未然に防ぐ理由や飼い主の決定によって安楽死が実践されることもある。このような時には動物看護師の個人的な感情によって行動するのではなく、その決定が動物にとって少しでも不幸が事にならないよう、また、飼主の気持ちを慮って行動できるように取り計らう。飼い主にもさまざまなよんどころない理由があるのであり、心を良く理解し、決して非難することのないように心に添えるような対応ができるようになりたい。



\* 災害時にはリヤカーに乗って避難します！ 災害時

の同行避難訓練。都内の地震など災害時には車の使用不可能になる可能性が大きいためリヤカーの準備をした一例。

7. 動物看護師は、自己の意思を持ち、自己の責任と能力を的確に認識し、自らの看護に責任を持つ。

動物看護師は、動物を観察することにより適切な動物看護過程の展開によって適切な看護ができ、その内容を獣医師と飼い主に報告できる必要がある。そのためには自分の能力を向上させ、常に知識を高めるために研鑽を積む責務が生じる。動物看護師としての責任を自覚し、常にチーム獣医療の一員として情報と問題点を共有し、看護の実践ができるようになりたい。

8. 動物看護師は、個人の責任として学習を継続し、動物看護に必要な知識と技能の維持と開発に積極的に努める。

動物医療と動物看護技術は常に進展し続けている。動物看護師は、高度化する獣医療の動きに対応できる知識を自らが吸収し、勉学することによって知識を高めて専門職としての教養と倫理感を身に付ける必要がある。動物看護師の職は、各人の知識だけではなく経験と教養、人生観など全ての感性が融合した職であると思われる。そのためには、学生時代のみの就業では不十分であり、進歩する内容に不安を感じつつ参加している不安定な状況にいるのではなく個人の責任として学習を継続し、向上し続ける必要がある。

9. 動物看護師は、他の動物看護師及び動物医療関係者と協働して、良質な動物看護を提供する。

動物看護師は、日々進化する獣医診療の場で最良の動物看護を提供できるように獣医師や他スタッフ(コメディカル)とお互いに協力し、より良い関係を築くように配慮する。良いコミュニケーションを行うことは良い診療、延いては動物と飼い主により良い動物看護を提供することにもなる。動物看護師は獣医師の下に位置して指示に従っていれば良いのではなく、動物病院での両輪の一端を担う存在として、お互いの存在と立場を尊重し合って向上し合うことが動物の幸せに通じると信じるものである。



\* 指導者の獣医師と動物看護師(ケンブリッジ大学獣医学部付属病院)

英国の動物看護師は日本同様、獣医療行為を行うことはできないが、獣医師の立ち会う場であれば可能な行為もある。手術中の麻酔管理、手術助手、採血、静脈留置針設置などの技術を習得できる研修システムを構築している国もある。



\* チーム獣医療。動物看護師は協調性を持ってチームの一員として参加する。

10. 動物看護師は、より質の高い動物看護を行うために、看護実践、看護管理、看護教育及び看護研究に必要な基準を設定し、それを実践する。

動物看護師は、動物看護過程を展開することにより、動物に看護の実践をするが、動物看護師自身の教育と研究にも言及すべきである。研究をすすめることによって動物看護師自身のステイタスを向上させることになり、延いては動物の看護技術の向上や飼い主のみならず国民全体に動物看護職の位置付けを高めてもらえることにもなる。



\* 笑っているかのようなご機嫌なポメラニアン

(カリフォルニア: 終末医療施設ホスピスケアのブライドヘブンにて収容されている犬)

11. 動物看護師は、看護実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、動物看護学の構築と発展に寄与する。

動物看護師は、今実施している看護の実践をそのままにするのではなく、お互いの情報を共有し広報することによって工夫し合い、それが動物看護研究へと発展し、さらに技術が向上する。また、実践している動物看護の内容を記録に残すことによって後輩へと引き継がれることになる。他者に認めてもらえるためには、記録(論文や報告)に残すことによって評価を得、自分だけではなく広く知られることが必要となる。

12・動物看護師は、社会の信頼を得るように、個人としての品行を常に高く維持する。また、より質の高い動物看護を行うために、自らの健康の保持に努める。

動物看護師は、共に仕事をする仲間のみならず社会人としての教養を身に付け、品行を保

つこと、一般常識や言葉使い、礼儀作法を知ることによって飼い主やスタッフ同士からも信頼を受けられるようになりたい。また、動物の健康管理をする立場である動物看護師は忙しい毎日ではなるが、自分の健康管理にも留意し、人と動物に共通する病気の予防にも心がける必要がある。



\* 健康で笑顔で活躍している動物看護師(米国 LA VMSG)

### 13・動物看護者は、動物の看護とともに、人と動物の共通疾病にも配慮し、人の健康及び公衆衛生に貢献する。

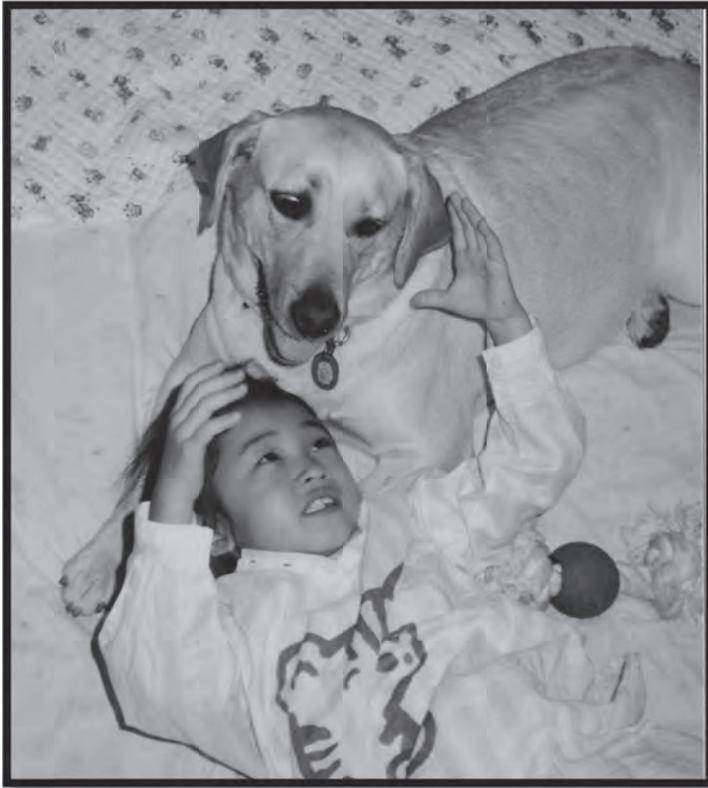
ともすると、共通の感染症は、動物が人に感染させるものと誤解されることがあるが、人も動物も同じ環境の中で、共に感染源に成り得ることを理解していることが必要である。その知識によって、共存できる環境を維持できるようになる。人と動物の共通疾病は、人獣共通感染症（ズーノーシス）と呼ばれるもので、動物看護師は特に幼児や高齢者がこれにかからないようにするための管理をする立場となる。各自も感染のチャンスが多くなることから鑑みて健康の管理に留意する必要がある。動物の健康管理をする職である動物看護師は、各自の心と身体が健康でなければ最良の動物看護の実践が不可能となる。



\* 犬もカフェで一緒に楽しむ。快適に環境を共有するためには、周囲に迷惑にならないようマナーを守って(チェコ・プラハ風景)



\* 子供にとって温かく柔らかい存在である動物と共に成長することは情緒を豊かに安定させるために大切な事であると共に、人獣共通感染症の知識をしっかりと持って子供と動物が共に健康で生活できることが重要である。



14. 動物看護師は、より良い社会づくりのために、環境問題について社会的認識を深め、その改善に努める。

動物看護師は、「人と動物のよりよい共生」をめざし人の環境と動物の環境の問題に関心を持ち、地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つととらえ、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる」という考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指す、という日本獣医師会・獣医師会活動指針（動物と人の健康は一つ、そして、それは地球の願い）に添うよう心掛けるようになりたい。



\* 盲導犬のユーザーさんに「触ってわかる健康診断」方法を指導する獣医師。

視覚障害者がより良い社会生活ができるために活躍する盲導犬は、補助犬として社会に認められた存在となっている。視覚に障害のある飼育者が盲導犬の健康管理をし、疾患を初期に発見することは困難な事が多い。使役犬として働いている盲導犬が、健康で辛いことが無く少しでも楽しいことがある毎日を過ごせるよう周囲の、特に獣医療関係者が助力できるよう尽力したい。

また、ユーザー自らが健康管理を積極的に実施できるよう指導すること続けていきたい。

(ボランティア活動「きらきら星の会」)



\* 「人と動物の関係学会」会場。介助犬と共に入場(2004 グラスゴー)

15. 動物看護師は、日本動物看護職協会を通じて、動物看護職の社会的認知と評価を高め、動物医療と動物看護の発展に寄与し、より良い社会づくりに貢献する。

動物看護師は、現状は法律に保証された職でもなく公的な資格を有するものではないが、獣医療現場では現実に必要な存在として認められる職である。そして、動物看護師は、動物の看護技術を提供することによって動物を愛する家族を幸せにし、延いては社会を平和にできる素晴らしい職である。動物看護師は、動物への関わりと共に飼い主との接点を持つことで社会貢献をし、動物を介するボランティア活動、福祉活動によって社会の評価を得られる立場である。少子高齢化社会における動物への関わりは今後チャンスが増し、需要も多くなるであろう。



\* 寝ているラブラドル(17歳)にちょっかいを出す猫  
(私達も、看護が“大きなお世話”“余計な手出し”になってしまわないよう)

## 第 章 動物看護技術について考える

動物看護技術を学ぶ前に、「技術」とは何かを考える

### 1)「技術とは行為を可能にする原理である」

技術とは、その手段や道具による結果だけではなく、その手段や道具を使う人(使える人)の存在があってこそ成り立つものであり、使う人の主体性や判断が重要となる。科学技術の発展によりさまざまな物や手段が開発された現在において、技術とは形や手順ではなく、また、知識理論だけに終始しない行為を可能にする原理である、とする。

技術とは、ある人にとっては大変に有難いものであっても、他者に対しては迷惑な存在である可能性がある。そのため、ある技術を適用すべきかどうかを決める時には、その技術を適用した時のメリットとデメリット、直接的に影響を得る対象と、直接ではないが影響を被るものの存在を考える必要がある。

### 2) 動物看護技術の特徴

動物看護技術とは、最先端の科学技術や伝統工芸の職人さんが形のある物を造り出したり、生活に便利な手段となる物を発明したり開発するものではなく、看護技術の対象となる動物たちにとって安全で不快感がなく、恐怖心を与えることなく動物が少しでも快適に過ごすことができるようにお世話することであり、また、健康を維持するために必要な飼い主への指導や飼い主と意志の疎通をよくするためのコミュニケーション、受診中の動物の観察技術やその内容を報告するための記録方法でもある。また、感染性疾患を持つ動物が入院した時には他の動物に支障が及ばないように感染防御方法であり、家庭を離れて不安や恐怖を感じているかもしれない動物達を安全に管理できる手段であったりする。

どれをとってみても、動物を対象とする看護技術の特殊性は、「技術を提供する対象が命ある動物たちである」ということだ。対象が、加工された木材や石、紙などであれば痛みや苦しみ、恐怖や不安を予防しながら技術を提供する必要はないのであり、もしも失敗してしまった時には変わりの材質が用意できるかもしれないが、命ある物が対象であるということは「替えが無い」ということであろう。

また、たとえ技術を必要としているのが動物の体の一部であったとしても、その一部分を全体から切り離して評価することはできないため、身体の一部だけをみてはならない。動物看護技術の対象は、個体としての動物全体であることを忘れてはならない。まさしく動物看護師は「病気をみるのではなく、全体を見る」ということになる。

動物に看護技術を提供する時、その技術を適用しようとする時、適用中、適用後にはその効果と結果について観察をし、対象である動物の反応の全体をとらえて評価せねばならない。

### 3) 状況の変化に対応できること

動物看護は、対象となる動物を一律のもののみならず、種の特異性、生態系の特異性を踏まえて管理をすると共に、個別性(キャラクター、性質)を尊重して適用する必要がある。

動物看護師は、各自の経験と知識によって過去の体験を、現状技術を必要としている動物に当てはめるだけで行動を起こすべきではない。同じ種、同じ性別や年齢であったとしても飼育環境や飼い主の接し方によって性質の変化があったり、飼い主が入手した方法によって問題になる行動を持っていることもあるので、一概に同じ技術を受け入れるということはない。

多くの場合には標準的な経過をたどってある一定のプロトコールに沿った治療により回復していくが、同じ疾患であっても、それぞれのキャラクターや環境の相違により予測しない方向に変化していくことがある。

対象の動物の状態は常に変化するものであり、その変化も様々であると認識し、動物看護師としての過去の経験を物差しとして行動するだけでなく、常に不測の変化にも冷静に、客観的な観察と対応ができるようでありたい。

そのためには、限られた知識だけではなく多くのパターンに対応できる幅のある知識と、刻一刻変化していく“生きている動物”の変化に気が付き、瞬時に判断できる力が必要とされる。



\* 入院室風景(米国 LA VMSG)

### 4) 動物看護技術の範囲

動物看護師が動物を対象に技術を提供できる範囲を以下のように整理する。

これらの各技術に関しては、関連教科及び部門で学習するものとし、本章では概要項目の紹介に留める。

また、後に事例を挙げ、これらの技術を活用して事例に該当する動物を対象とする動物看護過程の展開をし、その中で動物の看護技術について紹介する。

### (1)動物の健康維持に必要な技術

動物病院に来院する全ての動物が病気の診断や治療を目的にしているわけではなく、子犬のワクチネーションや定期健康診断、疾病の回復後の再検査や栄養指導を受けるためであることもある。健康な動物が動物病院内で感染症に罹患することがないようにすることは勿論、来院動物が不安や不快を感じないための環境を提供し、飼い主にも安心感を持って来院でみるような配慮が必要になる。

#### 1:入院動物の飼養管理

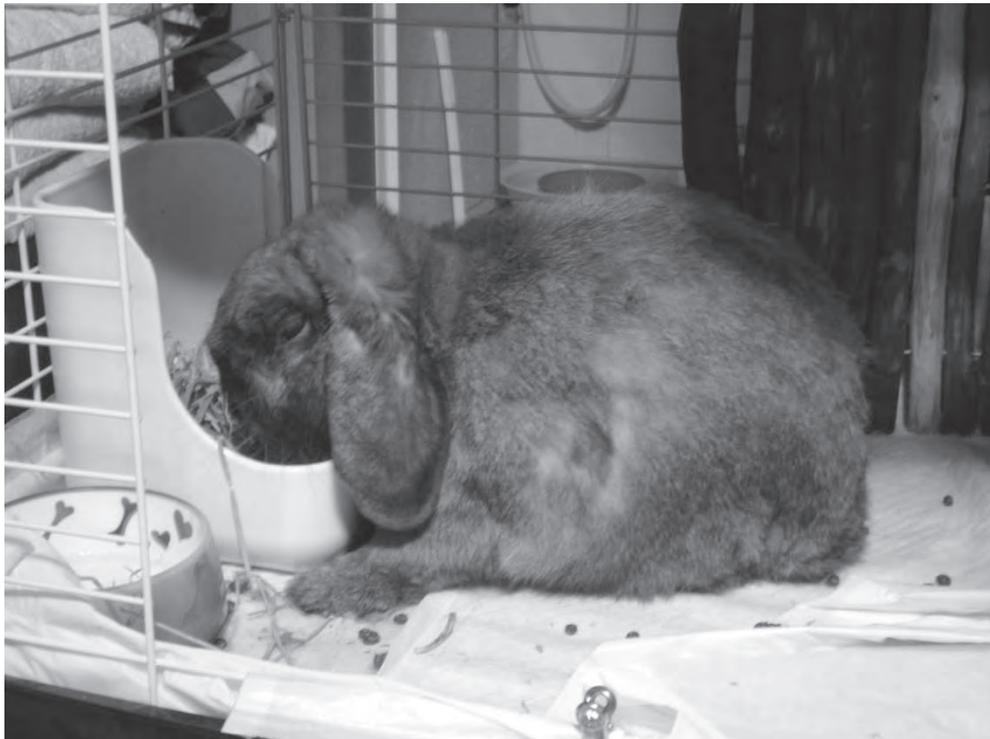


\* 入院室風景(米国 LA VMSG)

#### 2:動物種の生態系に則した適切な管理



\* 水飲みボトルを取り付けたケージ内で、藁で編んだハウスに入っているモルモット



\* ウサギのハウス。藁入れ容器、飲水の器(左側)

### 3:衛生的で安全な排泄の管理

4: ワクチネーションの確認と管理

5: 外部寄生虫の確認と予防



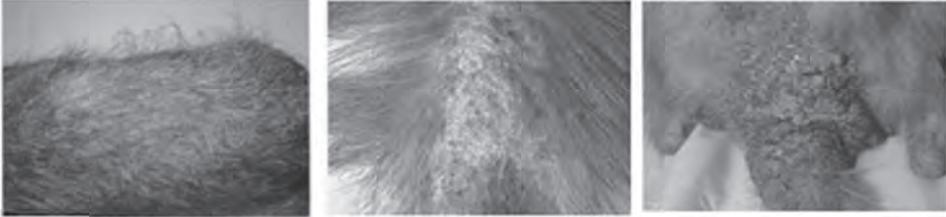
\* 犬ヒゼンダニの感染



ノミ



岩崎利監訳：「犬の皮膚病診療マニュアル」 85,ファームプレス 東京



永田雅彦：「普及版 犬と猫の皮膚科臨床」 T1-07-27-3, T-4 ファームプレス 東京



塗って白い布にこすり付けるとノミの糞

岩崎利監訳：「犬の皮膚病診療マニュアル」 89,ファームプレス 東京



\* 外部寄生虫 ノミ有無を確認する

岩崎利監訳：「犬の皮膚病診療マニュアル」ファームプレス 東京

永田雅彦：「普及版 犬と猫の皮膚臨床」 ファームプレス 東京

\* ヒゼンダニ



岩崎利監訳：「犬の皮膚病診療マニュアル」 34,ファームプレス 東京

ツメダニ

診療マニュアル p27  
ヒゼンダニの写真と  
p29罹患犬の写真




かゆい

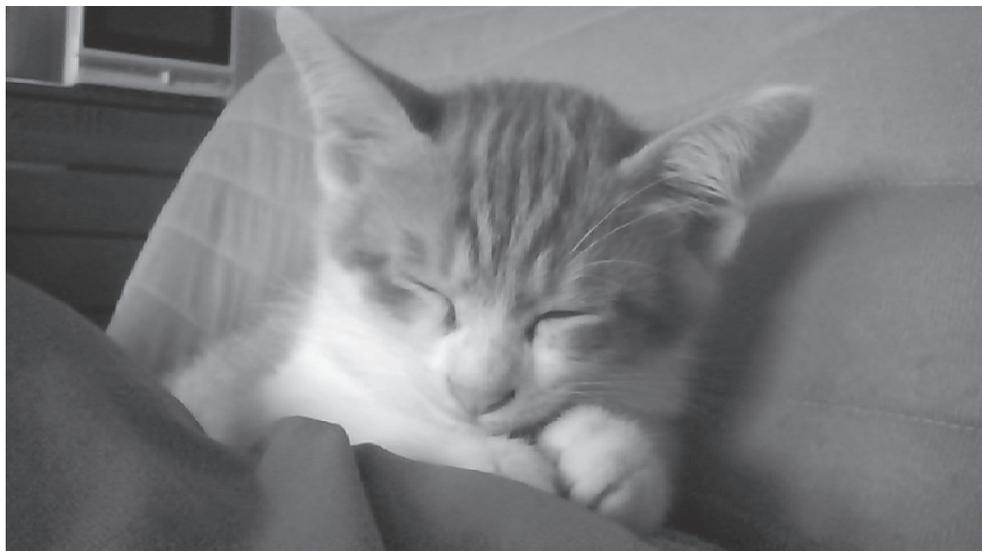
永田雅彦：「普及版 犬と猫の皮膚科臨床」 T3-07-27103, ファームプレス 東京



この冊子  
岩崎利監訳さんの作品  
(日本大学芸術学部卒)



## 6:入院中の幼若・老齢動物の環境と体調管理



\* 健康な子猫。

食欲があり定期的な排便排尿がある。眼、耳、鼻からの分泌物が無く、良く眠る。



\* 入院用ウオーターベット上で治療を受ける椎間板ヘルニア手術後の肥満高齢犬(鹿児島県内動物病院)

## 7: バイタルサインについて



\* 動物看護師による体温測定など(米国 LA VMSG の診療室内風景)



\* 抱き上げた犬の肛門で体温を測定する



\* 心拍数の確認



\* 犬の保定



8:入院動物に必要なその他の関連業務



\* 入院室の風景



\* 抗がん剤治療中犬の保定をする動物看護師。保定者、処置者共にガウン、グローブ、マスクを装着する(米国 LA VMSG)

## (2) 感染予防・衛生・安全管理

感染の恐れがある疾患を持った動物が入院した時には、その動物および他の動物に不利益が生じないように特別な予防策が必要となる技術が提供される。

1: 洗浄、消毒、滅菌



\* 滅菌作業に必要な機器



\* 滅菌時に使用するインジケータ



\* 滅菌後のインジケータの様子。時間経過と共に変色し、滅菌の有無を示す

## 手術の術衣・タオル・グローブの準備



\* 滅菌された手術に関わる人に使用する備品

2: 隔離が必要な動物の見極めと管理、作業

3: 感染予防(人獣共通感染症、動物間、院内)と感染成立の要因

## ズーノーシス(人獣共通感染症)

●「脊椎動物と人との間に自然に移行しうる全ての病気または感染症」

不特定多数の動物に接する機会が多い

咬まれたり ひっかかれたり

動物の唾液、体液、尿、糞便などに触れる機会が多い

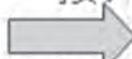
- 動物を守るためにも
- 人と動物の絆のため
- 今後 増加する傾向にある



## みなさんにズーノーシスを知って 欲しい理由は・・・

### ◆あなた自身を守るため

- 一般に人々と比較して、不特定多数の動物に接する機会が多い



ズーノーシスを保有する動物と接触する  
確立が高い

不顕性感染動物も少なくない



- 咬まれたり、引っかかれたりする機会が多い
- 動物の唾液、体液、尿、糞便などに触れる機会が多い

### ◆人と動物との絆のため

みなさんの仕事は、動物達の健康を守ることと、それを通して生命の尊さや生きる喜びを伝えること

動物と共に生活するヒトにとってズーノーシスは不安材料の一つ

ズーノーシスに対する正確な情報を伝え、  
誤解を取り除く義務がある

◆動物を守るため

ズーノーシスは動物にとっても疾患  
ズーノーシスの中には、動物にとって  
致死的な疾患がある  
不顕性感染であっても、動物は何らかの  
ダメージを受けている  
体力が低下したり免疫機構が低下した場合には  
発症する

## 今後ズーノーシスは増加する傾向

◆少子化高齢社会に伴い、動物と  
共に生活する人々の増加が予想  
ズーノーシス感染の可能性も増大

機密性の高い住宅で、接触密度の高い  
生活を送ることも可能性を増大

## 輸入愛玩動物の検疫体制不備

◆気付かない間に、輸入感染症が国内に侵入している可能性が高い

特にエキゾチックアニマルの場合には飼育方法や生態を熟知していないのに販売

健康と異常の差が不明で発見が遅れる

### 4:手指の衛生と防護具

#### ◆動物看護師に必要な手指の洗い方(紹介)

1 :



\* 流水下で見える汚れを落とす

2 :



\* 洗剤で手の平全体に泡立てる

3 :



\* 指の間を洗う

4 :



\* 指一本ずつを丁寧に洗う

5 :



\* 爪を立てて手のひらを洗う

6 :



\* 左右の親指を洗う

7 :



\* 手首を洗う

8 :



\* 流水下で石鹼をよく洗い流す

9 :



\* 使い捨てのペーパーなどでふき取る

## 5: 環境整備と廃棄物処理



\* テーブル上の使用済針廃棄ボックス



\* 壁の酸素配備表示



\* 整理された処置室内(米国 LA VMSC)



\* 整備された処置室



\* 一定期間カルテ保存が必要

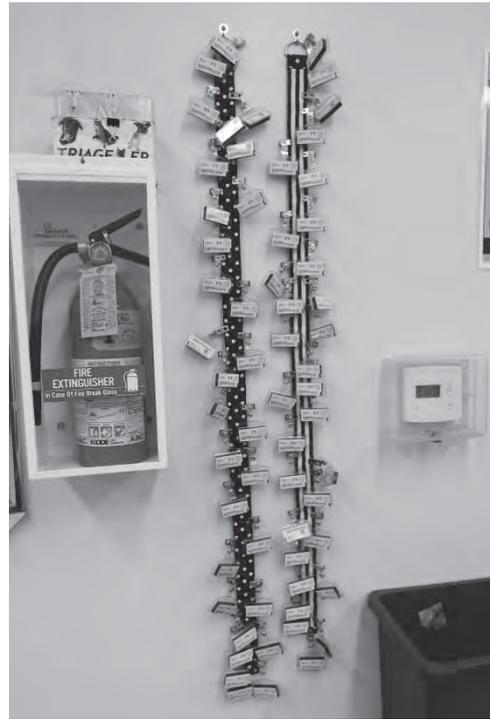
6:安全管理対策と事故の防止、獣医療事故と獣医療過誤の防止



\*レントゲン使用施設の掲示



\*レントゲン室と防御エプロンとグローブ、線量バッジを正しく収納する



### (3) コミュニケーション能力と飼い主との関わり方

動物にとって適切な動物看護を提供し、飼い主に受け入れてもらえるためには対人関係を良好にするコミュニケーション技術が必要となる。動物看護の対象は動物ではあるが、飼い主によって健常時とは異なる行動が発見されることによって動物病院に来院できる。また、人の言葉を話すことができない動物から直接悩みを聞くことができないため、適切な情報は飼い主を介して収集せねばならない。また、質の高い良質な獣医療を提供するためには、獣医師や動物看護師などのコメディカルとのチーム獣医療を構築する必要がある。このように、直接的には動物に対する技術の提供ではあるが、人との関係を良好に保つ技術がなければ協働して動物への適切な技術提供もできないこととなる。



\* ユニフォームを着用した動物看護師。

飼い主が安心して自分の動物を託せるよう、清潔なことが重要である。



\* 周術期作業や処置時の基本的スタイル

1: 社会人としての一般教養の必要性

2: 獣医療現場で必要な動物看護師としてのコミュニケーション能力(対⇒飼い主、院内スタッフ、企業)

## コミュニケーション

- クライアントとの距離・視線
- 真正面からの対応は緊張する
- クライアントが座っていてこちらが立ったままだと威圧的
- 眼を見つめすぎると緊張し 挑戦的 逸らしすぎると 頼りなく 不安
- 人間関係は挨拶から
- 言葉以外(非言語的)なこと  
表情、姿勢、仕草、態度、声のトーン

## 来院時対応

- 笑顔で対応
- 現金の管理
- 各種クレジットカードの取り扱い
- パソコンの入力
- 診察券の発行
- 各種証明書の発行
- 薬の調剤、説明
- 持ち帰りフード、処方食の説明
- 持ち帰り荷物の確認
- トータルケアの説明と指導



## 受付の身だしなみ

- 清潔第一 汚れた手、白衣の人にわが子は渡せません
- 我が身の手入れのできない人は、他人の動物の面倒をみる資格はありません
- 第一印象の美しさは 信頼につながる
- すっきりとした歩き方 背筋伸ばしてキビキビ動きましょう
- 的確な動きと正確な記憶

## 動物看護技術としての コミュニケーション能力



コミュニケーションをとるために必要なこと

笑顔

医療従事者としての清潔な身なり（既成概念を裏切らないような）

正しい言葉使い（適した挨拶、敬語を使えるなど）

信頼できる姿勢



## ☆コミュニケーションとは？

- ①人は生まれた時から、コミュニケーション能力を学び続けている・・・
- ②コミュニケーションは、視覚・触覚・嗅覚というような感覚を活用している・・・
- ③言葉だけではなく、ボディランゲージ、声の調子というものも関係してくる・・・
- ④コミュニケーションは、双方向のプロセスである・・・
- ⑤感覚、感情、抽象的な考えなど、言葉では表現しづらい・・・
- ⑥社会的環境の影響を受けている
- ⑦・・・いろいろな要因によって紛らわされてしまう・・・

## コミュニケーションの質を高める三つの方法

- ①効果的な聴き方をす  
(表の4つのこと)

大きな耳、ですが  
耳垂れワザがほ  
どのように情報を  
キャッチするので  
しょうか・・・



ドアーフのモッピー君

- ②効果的なコミュニケーションを  
使い分けるタイミングや方法を知る

・・・どんな種類がありますか？⇒別のスライド

- ③メッセージには一貫性を持たせるために、動物病院のスタッフごとにメッセージが食い違わないようにする。誰に尋ねても同じ情報が出せるように統一しておく  
⇒別スライド

## 指導教育に効果的な コミュニケーションの方法

- 文字で書かれた補助資料やイラスト
- 模型を告合ってわかりやすく
- 処置の手順を実際にいっしょに目の前で実施してみる
- 同じ内容であっても、いろいろな方法で何回でも繰り返す
- 理解と共感を伝えるようなコンタクトのとれる工夫



## メッセージには一貫性を持たせる

- スタッフ全員がクライアントに同じメッセージをつたえられるようにしておくこと
- クライアントに混乱や誤解を与えないよう、クレームの予防
- 動物病院からのメッセージをわかりやすく理解して貰えるための手段

⇒クライアントからの質問があった場合には、同じ内容で回答できるようにマニュアルを作成しておく



## コミュニケーション技術＝笑顔！



### ユニフォームの伝えるもの

- 社会的役割を伝える（仕事の内容・立場）
- 清潔な印象
- 信頼感を与える
- 大切な我が子を、安心して託せる存在かどうか



役割に応じたユニフォーム  
シミとシワの無い白衣  
“くすして”着ない  
規定以外を着用しない



## 被服・ユニフォーム のルール

- 獣医療の専門職として、第一印象を大切にしたい
- 清潔感は、信頼感につながる
- ユニフォームは、立場を表す
- ユニフォームに個性を出す必要はない



### 3: 飼い主教育と指導(クライアントエジュケーション)

## クライアントエジュケーションが必要なわけ



1. 動物のケアマネージャーとして、入学後2009年5月まで、アビリティセンターで

直接、患者動物に指導するのではなく、飼い主家族に話し、その内容を動物に実施してもらう。

“悩み”を持つ動物は、自ら解決する術を知らない。

もし、飼い主家族が放棄してしまえば、その動物の“悩み”は解消されることなく、

辛い生涯を送ることになる。

「動物看護者の倫理綱領」に記されているように、

私たちは、プロの術を活用して、動物が健やかな一生を全うできるよう援助することを目的として働いているはずである。

確実に実施してもらえるためには、どうすればよいのか

どんな技術と知恵が必要なのか

## ☆クライアントサービス

クライアントサービスとは、クライアントの期待に応え、期待以上のものを提供する能力

## クライアントエジュケーション

飼主家族への教育。疾病の予防や、家庭で継続して処置してもらう看護技術などを指導すること

## クライアントとはどんな人々なのか？

クライアントとはどんな人々なのか？・・・顧客、依頼主＝飼主家族

目的を達成するためには、クライアントが正確にはどういう人であるかに注目する必要があります。

クライアントを理解することは、彼らの熱意と協力を得るための最初の一步なのです。

次の観点からクライアントについて考察してみよう

- ・年
- ・性別
- ・就労生活
- ・自宅外で過ごす時間数
- ・生活様式の種類
- ・家庭内の動物の役割



クライアントについて考察する際には、次の3つの点について検討する必要がある

- ・クライアントの現在のレベル
- ・クライアントから寄せられる理解と興味の高さ
- ・新規のクライアントの獲得



## 現在のレベル

- 動物病院が提供するものがクライアントの希望に近ければ近いほど、その動物病院に倒して忠実になっていき、アドバイスにも耳を傾けてくれるようになる



消費者の気持ち：

“求めているものは、品物ではなく（手段）、それによってどんな楽しいことがあるのか、どんな夢をみられるのか（結果、体験価値）”を知りたい



## 求めるものは？

- クライアントの求めるものは？

動物病院の外観や印象

スタッフのユニフォームや衣服、清潔さ

地域の評判やイメージ

提供している製品やサービス

提供すべき情報を伝える方法



## コンプライアンスの向上

- ・ 飼主家族が獣医師および動物看護師からのアドバイスを守ることで、その動物は最前の治療を受け、回復することができる

- ・ WHO定義

コンプライアンスとは、「医療提供者からのアドバイスに合意した患者が、どれだけそれに従った行動をとるか」

(治療薬の服用、食事療法の遵守、生活様式改善の実施)

- ・ なぜ、アドバイスに従わなかったのか
  - ①実施せねばならない必然性について、獣医師から説明がなかった
  - ②説明はあったが、飼主家族がその重要性を理解していなかった
  - ③その環境での、実施可能な内容ではなかった。可能かどうか確認していなかった
  - ④できているかどうか経過確認をしていなかった

## コンプライアンスの向上



- ①担当者から、説明があったか、確認（過去）
- ②その内容が現実的であるかどうか、確認しできない問題点を抽出。なぜ、できないのか？（現在）
- ③納得できる実施可能な計画を立てる（未来）
- ④行動への決意と経過確認を続ける（未来）

動物看護師の価値観に基づいて計画するのではなく、いかに飼主家族自らの生活リズムや環境を振り返り、その経験と現状の問題点を明確にして、実行できる計画をし、どのようなアドバイスができるのかを考えることが患者動物を支援することになる。



4: グリーフケア(飼い主⇒悲しみの対応、お別れの時の声掛け、動物⇒亡くなった時の処置)



\* 猫の葬儀(手前の木箱内、左側に頭を置き花々で飾られている)

祈りの場を得られることにより、飼い主はその悲しみを癒され自分以外の者と分かちあうことで救われるような気持ちになれることが多い。



\* 犬の葬儀後自宅の祭壇

(火葬後、お骨を拾って壺に入れる。その壺を自宅に置き生前の写真や首輪などが飾られている様子)

ここでは、不幸にして動物を亡くした飼い主に対してどのような言葉かけをしたらよいのかわからない時に、動物看護師としてどんな対応ができるのかを時間の経過と共に見ていく。

## 感情に触れる言葉は「麻酔」と同じ

「私個人の感  
方で申し上げ  
てよいのかど  
うか、わか  
りませんが

〇〇ちゃん  
はよく頑張  
りましたね

「こんなこと  
を申し上げ  
て、かえっ  
てお辛くさ  
せてしまっ  
てすみませ  
ん」



〇〇ちゃん  
は、〇〇様  
のおうち  
に来て幸  
せだった  
と思います

具体的表現はくれぐれも、飼い主さんから信頼が得られている、という確信の元で、よく知っているヒトに対してのこと

亡くなった後の対応は、院長(病院の代表)の見解の現れ  
病院に所属するヒト達の個々のパーソナリティーの反映

その時に、自分にとって一番良い選択ができる飼い主になっていただくように導く

初めてのシーン  
初めての経験  
想像していなかったこと  
自分の行動・選択に後悔

プロから情報をたくさん与えねばならない

## 病院で亡くなった動物をお返すまでの配慮

知らせかた  
◆突然の時  
◆予想できていた時

誰が知らせるか  
◆院長  
◆担当獣医師  
◆看護師

お迎え時間の案内  
◆すぐ、飼い主さんのご都合で  
◆診療時間外を指定  
◆その他

従来のトリアージを決めておく

お迎えに見えるまでにしておくこと  
●身体的に●その他

安置の状態  
●箱に入れる  
●その他御

清算催促のタイミング  
●メドがある  
●その他気の状態に応じて

対応にかける時間  
●メドがある  
●その時の状況に応じて

個々の判断に任せっぱなしにすると決断・処理が遅れる

## 病院・家で看取りを迎える飼い主の対応 で、困ったこと、難しいこと



### 伝える言葉、表情に困る

入院させると飼い主が看取れないが、連れ帰ると亡くなる可能性が高い

自宅では看取りたくないなので退院させたくない

パニックになり普通に話しができない

飼い主の石で連れ帰ったのに、いよいよ危なくなってから何とかしてくれと言われる

家で看取りたくないからすぐに安楽死してくれと言われる

やっぱり家で看取ればよかった、と言われる

あまり話したことがない方には声かけができない

夜も眠れないほどの精神面のケアをどこまでどのようしたらよいのかわからない

けにはけの専門家があるので、任せる。あくまでも私達は動物を介しての精神的ケアのフロ。全て私達のセイではない

## 入院中に亡くなった動物をお返す際の反応 で、困ったこと、難しいこと



悪化した時、死亡した時、話をかけてもなかなか来院してくれない

「やっぱりあの時、連れて帰ればよかった」と言われる

病院としては精いっぱい治療したとしても、お役にたてなかった事で謝罪の言葉をかけたいが、言葉が見つからない

夜間の見回り中や、朝、出勤時に亡くなってしまっていたことに気付いた時、どう言えばよいかわからない

入院していたのに、死に目に立ち会えなかった時、飼い主さんは当然見ていてくれた、と思っている時

いつ、どうして、どんな様子で亡くなったのか、を知りたがる時

泣きじゃくって、他のことができない時

傍を離れて他の事をしたいが、何と喋っていいかわからずずっと付き添っている時

「聞いてなかった」「やっぱりあの時・・・」という後悔のないよう事前説明を詳しくしておく  
その時は言っただけでは覚えていないので、書面で示す。  
24時間見守っているわけではない、などのマイナス面も示す

## 入院中に亡くなった動物をお返す時に 心がけていること



### 周辺では静かにする

「亡くなった動物がいます」という合図をして、院内全員がそれを知っているようにする(暗号のアナウンスを流す、など)

他の飼い主さんと顔を合わせなくてすむように配慮する

身体を綺麗にお返す

身体を柔らかくする 安らかに眠っているようにする

飼い主さんに合わせるまで、箱に入れない。箱に入っていると、いつでも準備ができているようでイヤ

体温があって温かいうちは、タオルでくるんで抱っこしてもらう

お別れが済むまで、ご家族だけの時間を作る

お別れができる空間(部屋)を用意する

急かさない

お供えのお花、は準備してあったかのように間に合わせない  
“麻酔”なのでタイミングを考える→個人により異なる

お見送りを、できるだけ全員でする

いり加減ななお辞儀をしない→“一礼に託す”スキルが大切  
どこからお帰りいただくか

## 自宅で看取る飼い主さんへお伝え していること



### できるだけ名はこいてあげてください

名前をたくさん呼んであげてください

その子が好きなことをしてあげてください

安心できる場所で、家族みなさんで過ごしてあげてください

家族全員が納得できる選択を

困ったこと、不安なことは一人で抱えてしまわないよう、ご相談下さい

ケアの仕方を具体的にお伝えする

上手にできなかった、と自分を責めないように

「飼い主さんにも、いろいろと事情がおありでしょうから、  
できるだけ範囲でなさればよいのでは」という抜け道も。

## 動物が自宅でなくなった飼い主さんへの 対応でこころがけていること

電話を下された時こは、できるだけ担当医と話しをすることが  
できるように手配する

お話しをゆっくりと聴く

お花やお悔やみをお送りするときこは、担当医に確認をする。  
お付き合いの程度や、飼い主さんの感情傾向により、相違が  
あるため、要注意

身体の処置、心のケアなどのアドバイスをする

問われた場合こは、霊園の紹介をする。  
一か所ではなく、数か所紹介をし、選択できるようにする

依頼があった場合こは、病院から連絡をするが、できるだけ  
直接連絡をしてもらうようにする

電話を受ける時に、背後の音や声、笑声などに要注意

次回の来院や、電話等があった場合こは、院内全員がそのこ  
とを承知しているようにする

亡くなった報告は確実にカルテ記載し、記録に残す。間違っても  
次年度に、お知らせ等の手紙を出さないこと

あくまでも、飼い主さんの  
選択、という立場を。

### (4) 動物の行動の理解や保定に必要な技術

動物が適切に必要な獣医療診療を受けることができ、適切な動物看護を提供するために必要になるのは、人の言葉を話すことができない動物といかにコミュニケーションをとることができるか、ということになる。コミュニケーションを保つことによって、治療や検査など「今、必要な」体の位置や安全な姿勢がどのようなものかを友好的な方法で伝えられる行動学に則った技術が必要となる。対象となる動物にとって安全で、突発的な予期せぬ動きを予防することにより、最短時間で負担の無い検査や治療を受けられるためにも適切な保定が必要になる。

#### 1: 動物への接し方



\* 歯肉や歯列、歯の様子を観察する

2:入院中の動物の安全な散歩と運動技術

3:各時に適した保定の技術とハンドリング



\* 診療前に体重測定をする(米国 LA VMSG)

#### 4: 様々な処置や検査、状態に適した保定法



\* レントゲン撮影時の保定



\*ぬいぐるみを使用して獣医師が採血するデモンストレーション。大型犬のぬいぐるみで保定練習する（カリフォルニア州立大学カリポリ校にて研修）



\*エリザベスカラー装着（ケアンテリア）



\* 前肢から採血時の保定





\* 頸静脈から採血時の保定



5:エキゾチックアニマルの保定法(ウサギ、モルモット、ハムスター、小鳥など)



\* 保定と係留のための頭絡(とうらく)を付けた子牛



\* 削蹄時の牛の保定(頭に麻袋をかぶせる)



\*ウサギの保定



\*ウサギの歯の検査(不正咬合のウサギ)

(5) 観察および記録・報告と記録の技術

動物看護を実践するためには、対象となる動物を観察し情報を収集して整理判断するアセスメントを実施し、そこから動物看護過程の展開を進めることになる。それらは各自が個別に実践すればよいのではなく、適切に報告し、記録する必要がある。そのために必要となる知識と技術を知る。

1: 身体の評価、主観的情報と客観的情報(フィジカルアセスメント)



## 2:フィジカルアセスメント(身体検査)の方法と手順



## 3:SOAP モデルによる記録と報告

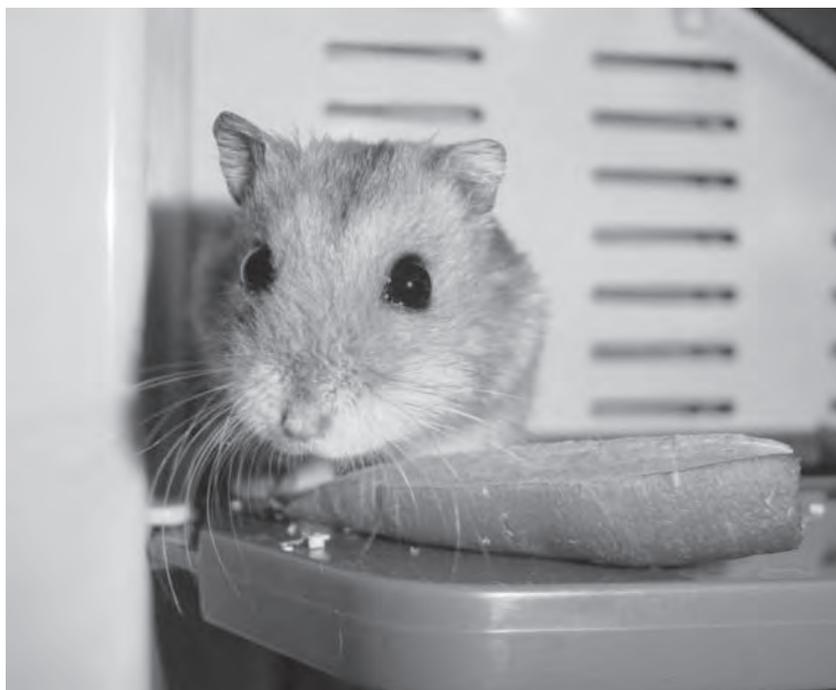
### (6) 飼養環境整備技術

動物看護師は動物を飼養するのに適した環境を整備する必要があるので、その知識を習得し活用させる。

1:種に適した環境作り(温度、湿度、光線、静寂の確保、換気、新鮮で臭気の無い空気、保温、床やベッドの素材)



\* お気に入りのハウス(モルモット)



\* 安心して食べられるお気に入りの場所(ハムスター)

2:入院動物に必要なスペース(体格と種に応じた面積、高さ、整備)





\* 体格に合った面積と床材、清潔な空間の入院ケージ



### (7) 動物の生活行動を補助するための技術

日常生活行動に支障をきたしている場合、対象の動物が必要としている技術を提供する。まずは、フィジカルアセスメントによって対象の動物がどんな問題を抱えて不利益を生じているのか、その問題を解決するためにはどんな処置をしたらよいのかを考える。そのためには、正しい現状を知るための情報収集が必要となるので、「アビリティモデル 2007」を活用し、対象動物が10の項目ができるのか、という情報を観察と飼い主や担当者からの聞き取りによって収集する。

1:「食べる」と「飲む」行動について(摂食行動のアセスメントと栄養管理)

2:排泄行動について(排泄行動のアセスメントと排泄物自体の観察と衛生的な管理)

3:グルーミング行動について(自分で清潔度が保てるのか、身づくろい、グルーミングの手助け)



\* 後肢麻痺の猫。グルーミング中。

4:体の位置を移動できる(褥瘡の予防、清潔な場所に移動)



\* 褥瘡のできやすい場所の提示(モデル)

5: 充分で正常な睡眠と休息の確保ができる (正常が呼吸下で、疼痛のない状態の睡眠、安心して快適に体温を保って眠れる場所がある)





\* 穏やかな寝顔(14歳ラブラドル)

#### (8) 診察時の補助技術

診療時に対象動物が安全に、そして負担が無いよう最短時間で確実正確な診療や検査が受けられるためには、診察全体がスムーズに行えるように動物看護師が獣医師をサポートするだけでなく、動物が安心して身を預けられるよう、また飼い主が信頼して動物を託すことができるようにサポートできることが重要である。獣医療現場における動物看護師の補助業務は、法によって限定保証されているものではなく、動物病院院長の方針やコメディカルの関わり、人数などの環境によって異なる部分である。

#### 1: 受付、会計業務、電話対応

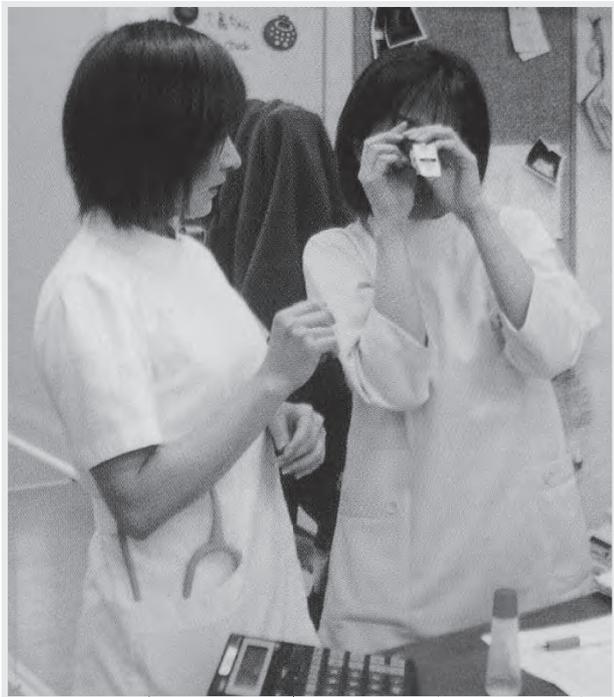


\* 受付カウンター風景(米国 LA VMSG)



\* 笑顔で迎える動物看護師(東京都内動物病院)

## 2:各種検査機器の準備と担当





\* 血液検査の実施



3: 飼い主教育と指導(クライアントエジュケーション)

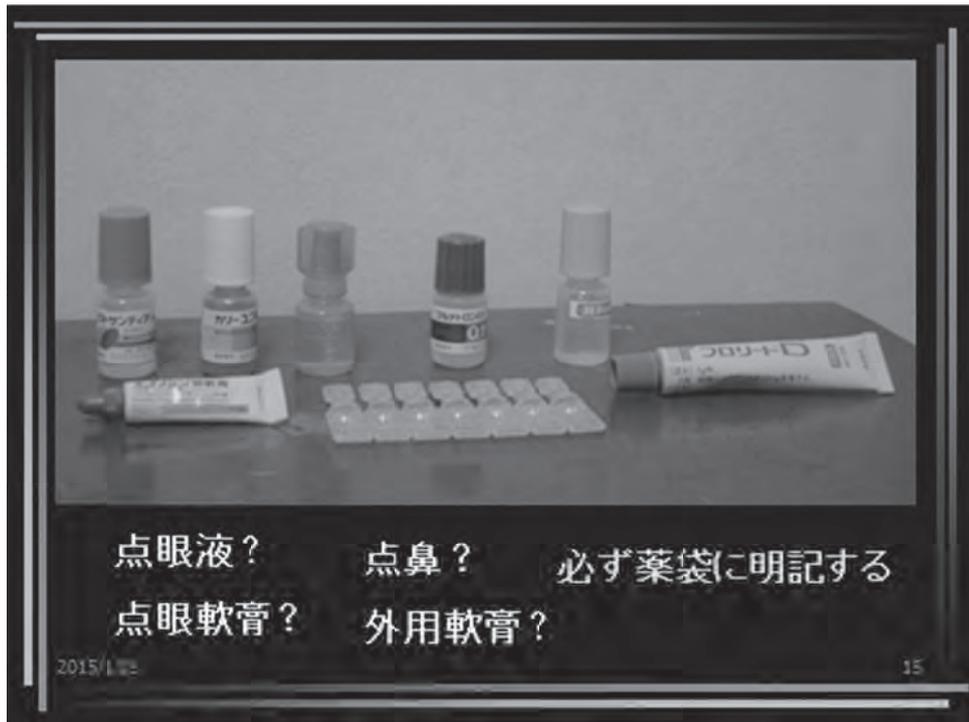
4: 薬剤調剤補助、薬剤の在庫管理

### 注射薬の アンプル製剤

- 遮光が必要か？
- 1アンプルの  
用量と力価は？
- アンプルカットの  
方法は？
- 1瓶(バイアル瓶)  
の用量と力価は？

アンプルカット時には この○印を上にして  
頭部を人差し指と親指で挟み下方に  
力を加える

2016/1/25



点眼液？ 点鼻？ 必ず薬袋に明記する  
点眼軟膏？ 外用軟膏？

2015/1/25

15



薬袋に明記し、投与方法を説明

2015/1/25

16

5:ホスピタリティー(動物、飼い主、環境に対する良い印象を与える気遣い)



\* 待合室でくつろぎながら順番を待つ高齢犬(米国カリフォルニア)

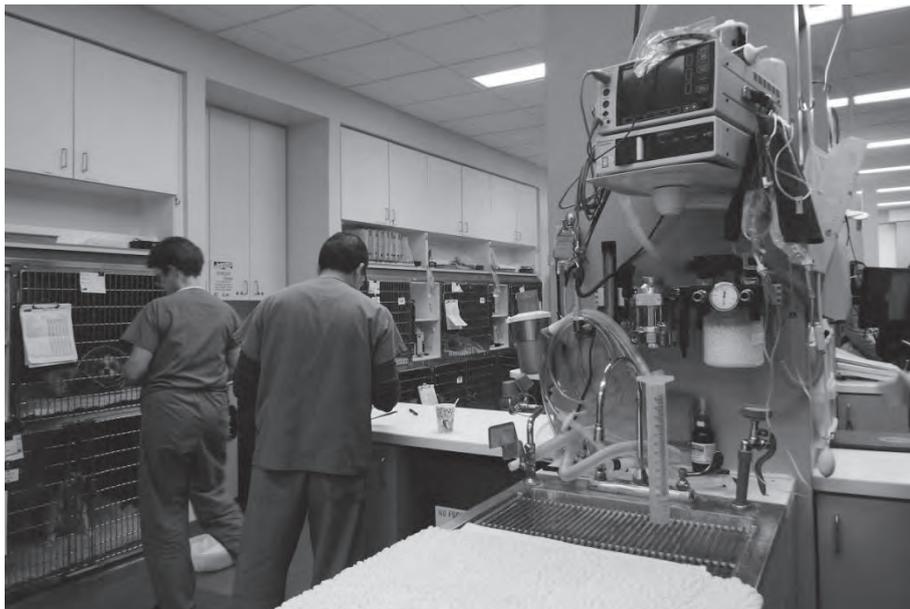


\* ゆったりとした待合室



\* 動物病院リハビリテーションセンター玄関前庭の様子。壁にはお別れした動物の名前と捧げる思い出の一言が書かれたプレートがはまっている(米国カリフォルニア大学デビス校)

#### 6: 必要な機材、器具の準備と清拭、管理



\* 処置室で様々な立ち働く動物看護師(米国 LA VMSG)



\* CT 撮影室



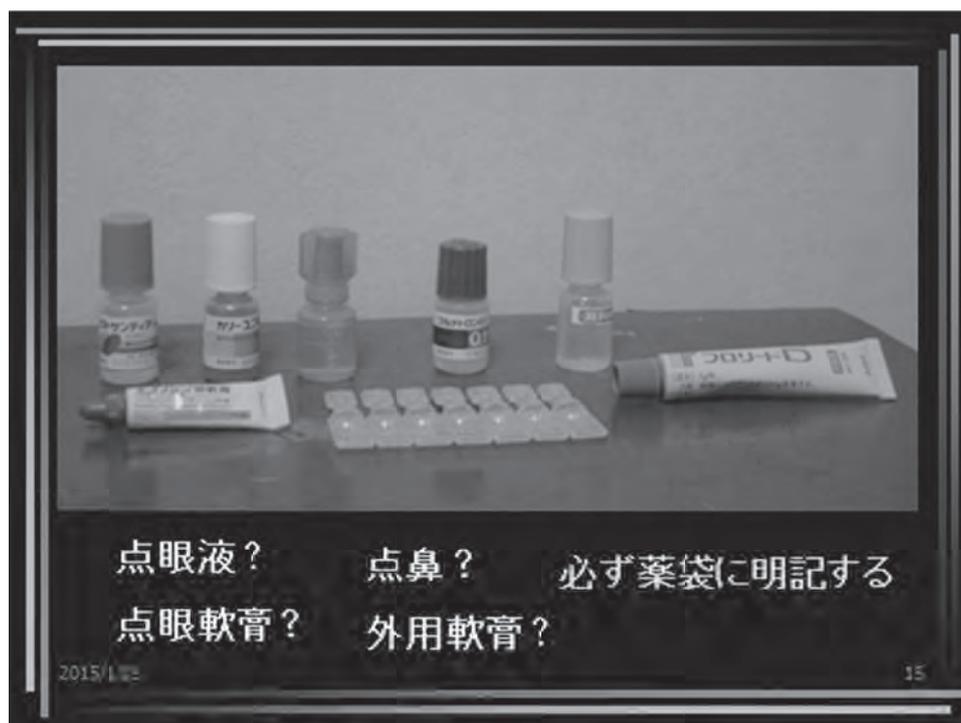
\* 整形外科手術準備を担当する動物看護師(米国 LA VMSG)



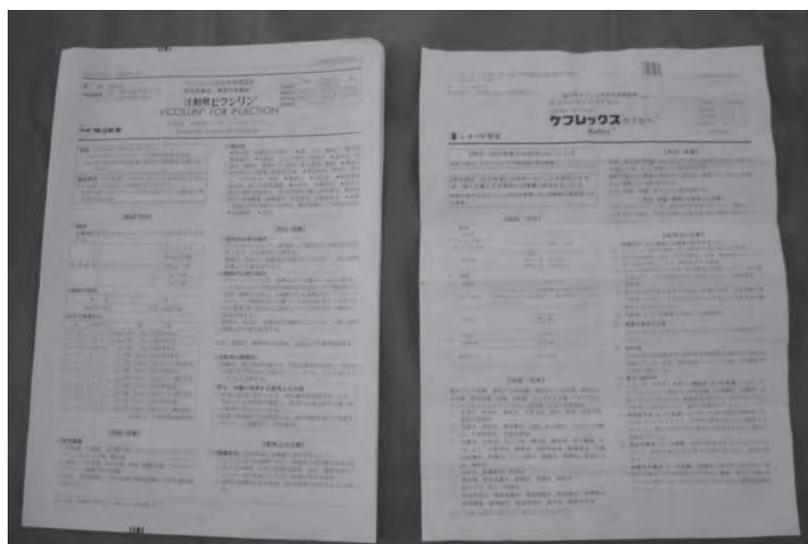
(9) 投薬を助ける技術

対象の動物に獣医師が処方した薬を正確に、安全に投与できることはその動物の悩みを改善し、適切な経過をたどって回復できる処置となるため、できるだけ正確に安全に投与できる工夫を伴う技術が必要になる。

1: 薬剤のパッケージにある情報を読み取る



2：投与の容量、力価、回数、間隔時間、継続期間、方法、副作用の発現についての知識



\* 添付されている能書(説明書)を読み、確認する

3：薬剤の形(剤型)



\* いろいろな形状と薬包

4: 薬剤の保存と管理(常温保存、室温保存、冷所保存、遮光保存、暗所保存、劇薬管理)

5: 関連法規を知り、遵守する精神

6: 投与量の決定と確認

**薬用量を計算する**  
 獣医師からの処方を理解する(経口・PO)

Pyrexin 250

Pyrexin 250

体重あたり必要力価  
 動物の体重  
 処方する薬の力価

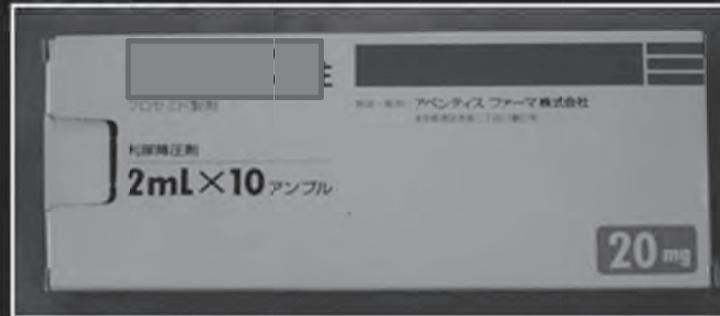
処方する薬の能書、箱から情報を  
 読み取る  
 確実に計算！  
 不安な時には必ず確認を！  
 手渡す時に必ず説明を！

2019/1/13

\* 薬用量の計算

## 注射薬の投与量を計算する

- 薬物(例:ラシックス)の薬用量が1mg/ kg とすると、体重8kgの犬に静脈内投与する場合、何mgの用量を(シリンジに何cc)用意すればよいか？



2015/1/25

8

7: 投与方法(経口投与、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点眼、点耳、塗付、吸入)と補助、飼い主への指導と確認

## 薬剤投与に関する代表的な略語

投与経路	投与間隔
PO 経口投与	SID 1日1回
SC 皮下注射	BID 1日2回
IM 筋肉内注射	TID 1日3回
IV 静脈注射	QID 1日4回
IC 心臓内注射	Q6H 6時間毎
IT 気管内	EOD 1日おき

2015/1/25

3

\* 投与経路、投与間隔の代表的な略語



\* 静脈留置針設置後、静脈に薬剤を注入する際の保定(左側)

### 点眼(目薬)

- 顔の正面から手を覆いかぶせると嫌がる
- 点眼瓶を持った手は脇から頭上に
- 少し上向きに保定し 下眼瞼を下方にそっと押し下げる
- なるべく目尻に近い眼球表面に触れないように滴下
- 軟膏状のものは下眼瞼に沿って塗布し瞼を少し押さえている
- 点眼後余った薬剤はふき取る(気にして擦る)

111

#### (10) 麻酔・鎮静処置時に必要な補助技術

動物に麻酔または鎮静処置を実施する時に必要となる動物看護師の役割を考える。麻酔または鎮静は、薬物を用いて動物の全身を鎮静状態にしたり、自己の意識では

コントロールできない状態、生理機能を一時的に休ませる方向にする処置であるため、動物にとっては特殊な状況となることを十分に理解できる知識が必要になる。動物看護師はこのような特殊な状況下で獣医師の作業がスムーズに実施できるようにサポートし、必要な機材が十分に活用できるように保管管理、必要な薬剤等の適切な在庫管理の補助ができるようになりたい。

1: 麻酔と鎮静という状況の理解

2: 動物の安全性の確保

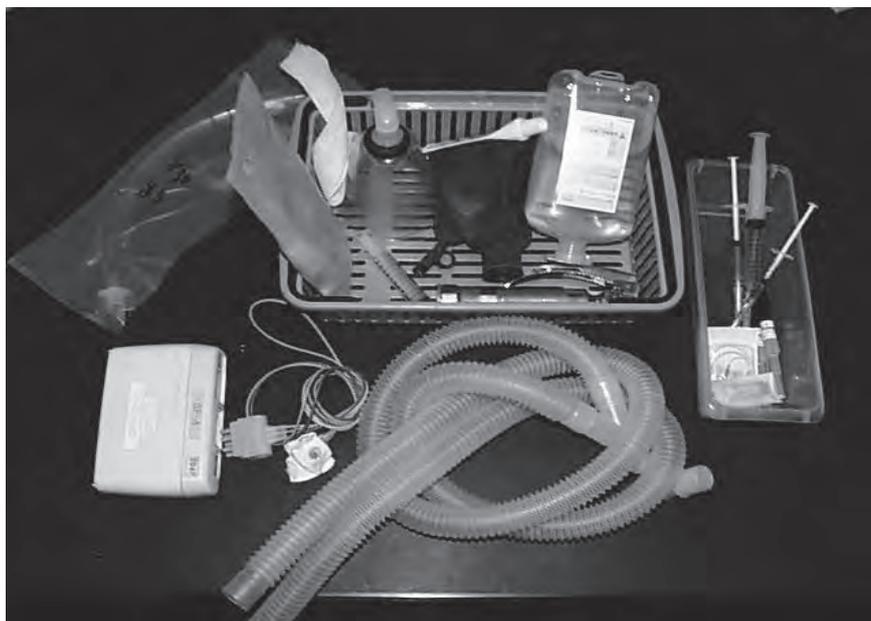


\* 麻酔導入時の保定と気管チューブの準備



\* 舌色を観察

### 3:使用した道具の後片付けと管理



\* 麻酔機材準備と管理



\* 麻酔中モニター機器



\* キャニスター



\* 気化器 ポップ弁



### 呼気弁・吸気弁

吸気の導入・呼気の導出を呼気相および吸気相で行い、回路内をガスが一方向に循環して流れるように規制する弁

吸気：炭酸ガス除去混合ガス



吸気弁



呼気弁

## 呼吸バック

- 呼気時の過度の抵抗を避ける: 6倍容量
- 呼出時2/3: 吸気時の虚脱防止
- 回路内ガスリザーバー
- 人工呼吸や呼吸監視用

15kg以下: 1L

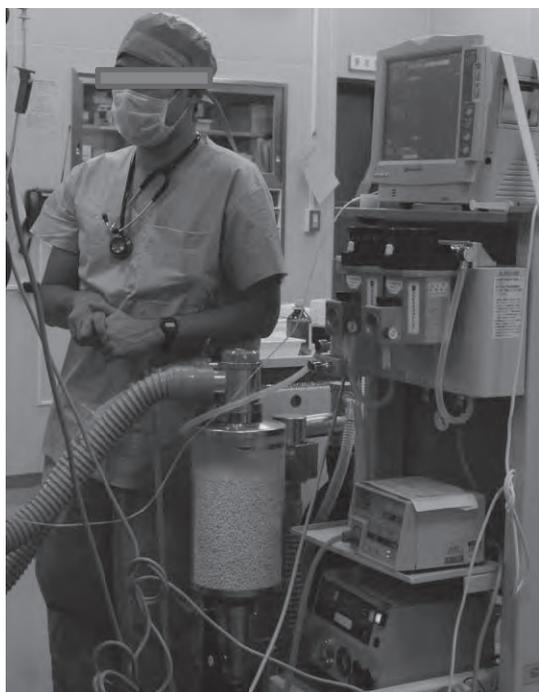
30kg以下: 2L

50kg以下: 3L

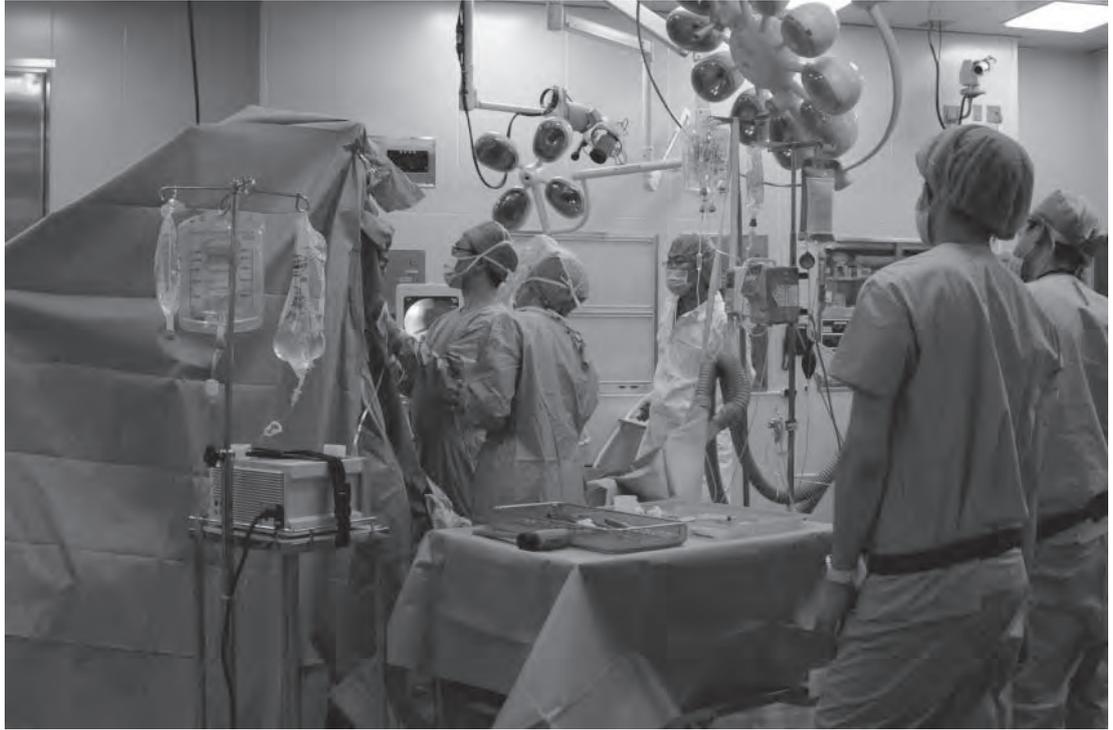
50kg以上: 4L 一回換気量の6倍  $10\text{mg/kg} \times 6-60\text{ml}$



\* 麻酔中のモニター機器



\* 手術中のモニター管理



\* 手術室風景



\* 馬の手術風景 (JRA 美浦トレーニングセンター内)



\* 日本動物高度医療センター 手術室(神奈川県川崎市)

4 : 飼い主に対する対応、特殊な状況下についての質問と応答

### (11) 輸液に関わる技術

動物に対して実施される輸液について適切な知識を持ち、動物看護師の役割について知る。輸液という治療行為は、獣医師によって実施されるものであるが、動物看護師は輸液を受けている動物の容体の観察や、そこから起きるリスク管理と報告することが必要なので、輸液薬はその方法意味についての知識を持つことが必要になる。

1: 輸液の適応とリスク管理

2: 輸液に必要な事前検査と観察事項

3: 輸液に使用する薬剤の知識



4: 輸液に関係する手技と道具





\* 使用するシリンジ、翼付き針、注射針の一例

## 5: 輸液を受ける動物の観察



\* 手術中の輸液管理



\* 術後の輸液管理



\* 点滴治療中の犬



\* 術後輸液治療中の猫

### (12) 輸血に関わる技術

動物に対して輸血を実施するときの知識を持ち、動物看護師としての役割について学ぶ。輸血とは、血液が必要になった動物に、対象動物とマッチした血液や血液成分を静脈内に投与すること。輸血は緊急時に必要となることが多い処置であるため、

輸血に必要な機材や薬剤、手順について日頃から十分に理解し、即、適切に行動できるようにしておく必要がある。また、輸血をすることの特異性や伴うリスク、副作用などについて知識を備え、動物の観察を気を抜くことなく続ける必要がある。

1: 輸血とは何か

2: 輸血が必要になる時とはどんな時か

3: 輸血のリスク

4: 血液型と輸血(犬の血液型、ネコの血液型)

5: クロスマッチテスト(血液交叉適合試験)

6: 輸血の手順

#### (13)救命救急処置時に必要な技術

動物に対して救命救急処置を実施する時に必要な知識を習得し、技術が実施できるようにする

1: バイタルサインとアセスメント

2: 気道の確保



\* 喉頭鏡で喉頭蓋部を確認



\* 獣医師が気管チューブ挿管するための保定

気管挿管

犬歯に紐を掛けて上部に牽引し、左手で喉頭鏡とガーゼで舌を同時に持ちながら○の部位に喉頭鏡の先をやや前方下側に押すようにしながら気管チューブをゆっくりと気管へ挿入していく



\* 気管チューブ挿管し固定する準備をしておく



\* 気管挿管に必要な機材の準備

3:心肺蘇生法(観察、一次救命措置、胸部圧迫、人工呼吸、二次救命措置)



\* めいぐるみを使用して、胸骨圧迫による心肺蘇生術を練習する(左:ネコ 右:大型犬)

カリフォルニア州立大学カリポリ校にて:動物看護研修 CPR



4:蘇生法をいつ止めるか? 自己呼吸開始した場合の対応

5:その他の緊急処置について

## 適切な処置



- 呼吸停止の場合・・・気道の確保
- 出血の場合・・・止血
- 骨折の場合・・・固定
- 創傷の場合・・・消毒と保護
- 中毒の場合・・・原因探求と対象療法

## 応急措置とは

けがをした動物や急病に陥った動物に対するすみやかな処置

### 3つの目的

- 救命すること
- 苦痛を取り除くこと
- 状況の悪化を防ぐこと



## 4原則

- あわてないこと！
- 気道を確保すること
- 出血を止めること
- できるだけ早く獣医師と連絡をとること

### (14) 死の看取りに必要な技術

動物が死亡した時の対応法、飼い主への対応法について学ぶ。

人の言葉を持たない動物が、苦しいことがなく、だけ幸せな状態で、動物がその動物らしい一生を送ることができるように、動物とその飼い主を支えることが動物看護師の役割であり、それを学ぶのが動物看護学であるといえる。動物が死を迎える時に、その死が安らかな状態で迎えられるように補助ができるのであれば、その役割を知る。また、その動物と共に人生を歩んできた飼い主にとってどんな影響があるのか、どんな心境であるのかを理解し、悲しむだけではなく後悔や自己を責める姿がるのであれば、その心に寄り添えるようにしたい。

#### 1: 動物の最期が分かっている時の対応



\* 最期に近い慢性腎不全の猫を自宅で看取る準備がされた。

## 2:死亡した時の対応、死後の動物への一般的な技術



\* 自宅で看取られた猫。思い出の品や生前の好物で飾られていた。



\* 葬儀をする会場（寺院）で指定の木箱に移された姿。飼い主の希望で自宅からは箱に入れず、タオルでくるんで抱っこして移動した。

## 第5章 事例で考える動物看護過程の実際

(1) 高齢犬を“寝たきり”にさせないための動物看護過程を考える

◆「骨関節炎があるクリスちゃん」



\* 高齢犬の姿 (17歳ラブラドル・レトリバー)

### 1. アセスメント(情報の収集と整理)

事例: 犬(ラブラドルレトリバー)、不妊手術済雌、17歳1か月、体重21kg

飼い主の情報: 60代初めの夫婦と娘ひとり。職業は医療関係者。都内在住。車で15分程度で通院可能。

診断名: 右後肢骨関節炎、

既往歴: 腎不全の初期、外耳炎、歯周炎

現病状: 数か月前より右後肢を引きづって歩きづらそう

散歩には行くが、階段の上り下りが辛そう

生活習慣: 12歳まで盲導犬として働いていたが、その後家庭犬として受け入れられた  
朝、昼、夕の三回～4回、散歩をする。1回15分程度。  
朝、夕の散歩と食事は飼い主が担当するが、昼間は飼い主不在時間が長いため、ボランティアの人が散歩を担当している

性格など: 盲導犬として働いていたため、従順で穏やかであるが、ちょっと頑固なところもある。  
どんな人や動物にもほとんど興味を示さず、静か。  
おもちゃなどで遊ぶことが無い  
同居動物には、猫(13歳、不妊手術済雌、屋内飼育100%)  
犬(10歳、去勢手術済雄ケアンテリア、やんちゃで元気)  
ウサギ(5歳、去勢手術済雄ドアーフ、穏やか)がいる

治療方針: 右後肢跛行のため、神経学的検査、レントゲン検査の結果、脊髄の異常は無く、  
右後肢骨関節炎と診断された。  
高齢のため、入院はせずに家庭で過ごす。  
痛みの緩和と、サプリメント服用、寝たきりにならないようリハビリを取り入れる

2: 看護診断(問題抽出)の前に、高齢犬と老化の影響、高齢犬に多い一般的疾患、QOL 維持のためのリハビリメニューなど、高齢犬の看護に必要な基礎知識について学ぶ(詳細については、該当する章で学ぶ事とするが、最低限必要な知識をまとめる)

犬や猫の高齢化がみられるようになり、診療対象としても高齢犬の占める割合が多くなってきている。高齢動物にとって、今まで保ってきたQOLを維持し、自立した生活は次第に困難になってくる。起立が出来づらくなると共に運動時間が少なくなり、飼い主の手を貸りなければできない日常動作が多くなる。そして、最終的には起立が出来ず、「寝たきり」という言葉があるように寝たままで食事や排せつをするようになる可能性が大きくなる。

野生の動物にとって「歩けない」ことはそのまま生命の危機となることが多い。これは、起立できること、歩けることが捕食するための手段であることは勿論、危険が差し迫った際の闘争、不適な環境(寒い、暑い、不衛生など)から移動など生きていくための絶対条件となるからだ。

しかし、家族の一員となった動物には、ケガや障害によって例え歩けなくなったとしてもそれがそのまま生命の危機につながる、ということは少なくなったと思われる。  
それどころか、飼い主は、歩けなくなった動物の機能再生と、「また一緒にお散歩できるよう

になって」ということを願い、獣医療の他に家庭で自分たちで何かできることはな  
いかを模索し、治療の一環としてリハビリテーションの実施を選択するようになって  
きた。

高齢動物の日常生活行動(食べる、飲む、排泄する、移動する、身を清潔にできる)に不  
自由となったとしても、それをなんとかカバーしてQOLを高めることに加えて「犬の、  
犬としての本来の行動(生態)を損ねることのない生活＝寝たきりにしない生活」  
ができるような治療と、リハビリテーションについて考えてみる。

ただ、高齢動物には老化の過程にともなって様々な変化が考えられ、多数の内科疾患を抱  
えることが多く、それぞれの症状や変化自体が困難な問題を生じさせていること  
があるため、高齢犬のリハビリテーションプログラムを作成するためには「高齢だ  
から」ということ以外に、病気であるかどうかということの評価が必要になる。

そして、最終目標は高齢期の犬の生活の質の向上に欠かすことができない「少しでも自分  
で歩くことができる期間を長くする」と「寝たきりにさせない」ということになる。

老化そのものは疾患ではない。犬種による体格の違い、遺伝的特徴や特定疾患、飼育環  
境、栄養状態、不妊手術の時期などの要因が老化の過程に影響を与えていると  
いわれるが、加齢現象によって起きてくる多くの事の中の一つとして、四肢の筋  
力の衰えや動きの鈍さがある。

それに加えて視力や聴力も低下し、以前はできていた動作も困難になる。また、いろいろな  
部位の関節炎の痛みによる機能不全も見られるようになる。

老化の影響は人間で実証されており、同様の過程が犬にも生じると考えてよいだろう。高  
齢犬の飼い主は、食欲の低下、睡眠パターンの変化、活動量の減少といった行  
動や生活スタイルに見られる特定の変化について、単に高齢のために出てきた  
症状であると考えがちのようだ。

しかし、骨関節炎をはじめとし、病気として出来るかぎりの治療をすることは勿論だが、生  
活の質の向上に主眼をおいたとき、病気を完治させることよりも「歩けること」「痛  
く、苦しいことのない」そして「犬らしい生活」をさせてあげられるようにすること、が  
看護の主体ではなかろうか。

若い犬がケガや事故で歩行困難になった場合、リハビリテーションの目的を「できるだけ元  
の機能に近く改善させること」として、機能不全に陥った犬のリハビリテーションを  
継続するのが、高齢犬の場合には「痛い思いをせず少しでも長く自分で歩くこと  
ができるように」という目標を持って歩き続けること(自分で体の移動ができる)を  
目標としたリハビリメニューを考えてみたい。

獣医師による他疾患の診断や評価が実施されてから、安全なリハビリを開始する。



\*片側鼻腔から膿状鼻汁を出す高齢犬



\*跛行による爪の削れ



\*側頭筋や咬筋が委縮した高齢犬の顔

◇表1:犬における老化の影響<sup>1,2</sup>

代謝的影響	代謝率低下
	免疫力低下
	感染症を防ぐ能力の低下(食作用と走化性の低下)
	自己抗体と自己免疫疾患の発生
身体的影響	体重における脂肪率増加
	皮膚の変化(肥厚、色素沈着過剰、弾力性低下)
	肉球の角化過剰、爪の脆弱化
	筋、骨、軟骨の減少

	関節炎発症の可能性増大
	肺の弾力性低下、線維化、肺分泌物の粘稠性増加
	肺活量低下
	発咳反射、呼吸器機能低下
	尿失禁
	循環器機能低下
	神経系細胞数減少

◇表2:高齢犬の一般的疾患<sup>1,2</sup>

糖尿病	肥満
心血管疾患	変形性関節炎
白内障	癌
歯科関連疾患	甲状腺機能低下症
尿石症	副腎機能亢進症
貧血	尿失禁
肝臓疾患	慢性腎疾患

#### ◆基礎知識～骨関節炎～

骨関節炎は、肥満犬、高齢犬など最大で20%の犬が罹患すると言われている一般的疾患。骨関節炎の動物は、生活の質が低下し、運動が制限され、動作が鈍くなり、筋委縮や疼痛による不快感、関節の可動域(ROM)の減少による関節のこわばりが現れる。骨関節炎が進行するにつれて、疼痛や運動量の低下、関節のこわばり、筋力低下の悪循環が生じることになる。

治療方法には、抗生剤や鎮痛剤の投与、生活環境の改善、時には外科的処置等が選択されることもあるが、まず必要なことは「その犬が適性な体重であるかどうか」を評価すること。

人の場合の身体への負重を考えてみると、関節にかかる負重は体重の2～6倍と言われている。例えば、体重70kgの人の負重は、起立時:第3腰椎には100kg、階段の昇降:同部位に500kg以上となる。

四肢歩行である犬にこのままの数字が当てはまることはないが、体重過剰の個体は関節に負担がかかり、骨関節炎の危険性が高くなることは確実である。適切な体重管理は関節への異常な力を緩和するのに役立ち、骨関節炎の薬物使用量を軽減できることにもなる。

骨関節炎は交通事故や転落、打撲など外傷と関連している場合もある。こうした外傷の結果生じる骨折や関節の脱臼も、犬の健康状態や年齢にかかわらず、骨関節炎を発症する原

困となる。

骨関節炎の場合、リハビリテーション療法における目標は「使わなければ失われる、使えば失われない(Use it or lost it)である。柔軟性は使わなければ硬化し、筋肉は鍛えなければ弱く細くなるということになる。

◆家庭での運動プログラムで注意すること

- ①動物の生活環境と限界を知る
- ②飼い主の生活パターンに合わせた様々なメニューを提示する
- ③ 無理なく「ほどほど」から開始する
- ④ 動物に合わせた持続時間や頻度、強度を提示し増量や減量をする
- ⑤ 結果の再評価を必ず続ける

◆長期に継続するリハビリテーション; 家族の理解と協力が必須

- ①家族に骨関節炎に関する情報を提供し理解を求める
- ②肥満解消をはじめ、栄養的、内科的に必要な治療を検討する(鎮痛剤の種類や使用方法の検討、長期に使用するサプリメントの検討)
- ③環境の改善を検討する

事項	変更前	変更後
食事と水	床に置く	食器の位置を高くする(台の上に置く)
歩行	硬い表面を歩く(アスファルトやコンクリート)	柔らかい表面を歩く(土、芝生など)
散歩形態	週末にまとめて長時間	毎日定期的に少しづつ
玄関、出入口	階段・段差がある	滑りにくいスロープ
床面	滑りやすいフローリング材	滑りにくい床材・部分的な絨毯
寝る場所	硬い場所、屋外	適度にクッション性のある快適なベッド・適度な気温と湿度
車に乗る	車に飛び乗る。車への乗り込みが困難	犬用のスロープ板・車の車床を低いものにする

\* テネシー大学使用のものを参考に編集(Darry L.Millis, MS,DVM;David Levine,PT, 第4回テネシー大学公式認定「犬のリハビリテーションセミナー」コースiv、ペットベツト、東京 2010)

◆評価方法

家族が「おかしい」と感じ、受診した時に現状を知るため、治療やリハビリテーションが実施された後の評価をする

- ① 飼い主による観察事項

観察事項	程度			
	難ではない	やや困難	非情に困難	不可能
ベットやソファに飛び上がる				
ドックランで走る				
階段の昇り降り				
クリスピーやボール遊びができる				
歩行（1キロ）				
排便姿勢の保持				

### ②動物の動作の観察をする

- ・関節痛があるか
- ・動くとき痛みがあるか？
- ・筋肉量
- ・神経支配は正常か？

安静時	移行時	歩行時	持続時	触診
快適な姿勢か？	起立時の姿勢	走ろうとするか	姿勢保持ができるか	すべての関節 四肢のすべて
四肢の位置は正常か？ ・過剰な屈曲 ・過剰な進展 ・以上な回転	座る時の姿勢	体重移動はできるか	排便姿勢が保持できるか	関節に触れると痛いかな
	伏せをする時の姿勢	ゆっくり歩けるか		関節が動くと痛いかな ROMは正常か
				筋肉量は左右対称か
	階段を昇る時	は行は？		神経支配はどうか
脊椎の形状				
睡眠時状態				

### 3: 看護診断～看護する上での問題点を抽出する～

アセスメントで得られた情報を整理し、この疾患の特徴を良く理解しふまえた上で今後感度する上で問題になる点を抽出する。

今回の事例の問題点は

- ② 長年盲導犬として活躍してきたため、骨関節炎はあっても毎日の歩行が習慣になっている
- ② 17歳の大型犬である
- ③ 室内での排尿、排便ができない(屋外が習慣)
- ⑦ 食欲があるので、肥満傾向になりやすい
- ⑧ 飼い主は昼間留守がちであり、頻回の散歩は望めない
- ⑨ 感情表現が乏しく、痛みの評価が難しい
- ⑩ 高齢のため、他の疾患発症する可能性が高い
- ⑪ 古い日本家屋のため、畳の部屋や土間のある玄関など、段差がある

4: 動物看護計画～看護目標を設定し、観察項目や問題点などから看護計画を作る

動物看護計画用紙 (例)

<b>入院室情報</b> 消毒G:NP 室温設定: <b>25度</b> 暖房/冷房	<b>動物のなまえ: クリス</b> 犬・猫・♂・♀(S) <b>誕生日(歳): 17歳</b> 他の情報: 見える犬舎で、床には毛布を敷く。食器は台の上に置く	<b>飼い主氏名: ○○○</b> <b>住所&amp;連絡先: 東京都○○区○○町4-3-2</b> <b>電話: 03-○○○</b> <b>緊急時: 090-○○○</b>	
		<b>入院日 年</b> <b>1月 18日</b>	<b>担当動物看護師: ○○○</b>
<b>入院目的</b>	<b>骨関節炎の診断後、検診をし異常なければ家庭で生活するための計画を立てる</b>	<b>看護上の問題点</b>	① 17歳のため、傷から感染症に注意 ② 寝る時にはクッションが無いと痛い ③ 盲導犬だったためか表情に乏しいので痛みの表現を読み取りにくい ④ 啼かないので不快かどうか不明
<b>治療方針</b> (担当獣医師名)	<b>慢性的な経過をとる骨関節炎の治療。鎮痛剤の使用、リハビリテーション開始</b> (○○獣医師)	<b>看護目標</b>	① 感染症を発症させない ② 痛みのない日常生活(鎮痛剤が適切かどうか評価) ③ 家庭でできるリハビリの指導を飼い主にする ④ 栄養指導をする(フードの量を決定)

食事	体重増加させないためにカロリー制限あり。高繊維質で低カロリー食	看護計画 (看護上の 具体例)	① バイタルサインを確実にする ② 体重管理をする ③ 寝ていることが多いので、排尿時間を定期的に決めて屋外に行く ④ 排尿時の歩行は、ゆっくりとリードを付けて。できるだけ土の上を歩く。ナックリングの無いように起立させてから歩行する ⑤ 朝、夕に温湿布をしてからマッサージ。特に右後肢を肢端から上部に軽くゆっくりと。 ⑥ 退院時に、歩行とマッサージを飼い主に指導するのでお見舞い時には一緒に参加してもらえるように時間を考える
散歩(注意事項)	可(右後肢 疼痛のため、爪先をひきつって歩行。獣医師の指示のもとリードをつけてゆっくり5分/1回) 不可		
持参物	ケース・リード・食器・フード その他:毛布、枕		
注射 点滴 投薬 他		注意事項	

#### 5:動物看護の実践～動物看護記録～

実践した内容を看護記録として記載し、報告する。

・入院時の動物の様子

・・・不安そうではあるが、飼い主と別れる時にはスムーズに預かることができた。

17歳の大型犬のため、床材に注意をする

食事は、カロリー制限があるために毎日の体重を測定し、グラムを決定する  
体重 21 キロ。BCS3～4.3を目標にする

・入院 1 日目

・・・食欲良好、良便、排尿あり

食事前に、

1:右後肢を温湿布する(濡れタオルを電子レンジで温め、右膝関節を温める。タオルを交換しながら5分間実施)

2:獣医師の指示によりリード付けて5分の歩行。歩き始める前に、長時間寝ていたの  
でゆっくりと起立し、右後肢のナックリングのないことを確認してから歩行開始。  
歩行途中で排尿姿勢を取る。保持可能。排尿正常。

3: ケージに入る前に、起立姿勢で肢端から足根関節～膝～股関節に向かって軽くマッサージ

4: マッサージの後で、起立のまま右後肢を挙げ、下に降ろす動作を5回繰り返す  
…食事はドライフード〇〇グラム。ケージ内に台を置き、食器の位置を高くして頸を床まで下げずに食べられるようにする

…昼と夕方に、朝と同様の運動を実施。

鎮痛剤は、本日の診察時に獣医師から処方決定される予定。

診断と予後判定、看護計画、家庭でのリハビリ指導をして明日退院。

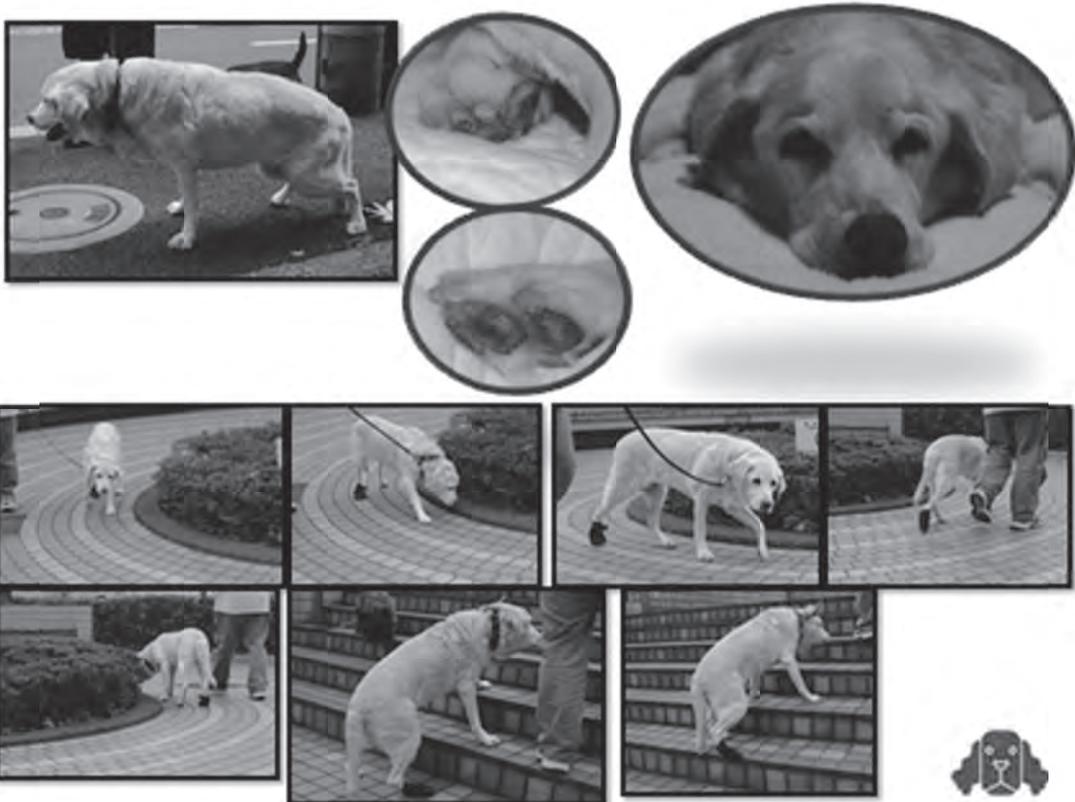
なるべく家庭の環境で、飼い主がリハビリを実施していく。困ったことがあれば相談を受け、留守時間が長い時には、預かるなどの対応をすること。寒い日々の呼吸器感染症や、消化器疾患での体力消耗などに注意し、飼い主と連絡を密にしながら共に進むこと。



\*参考例：肘関節を保温パットで温める様子（ヨガマット上に寝かせたラブラドル）



\*保温にも冷却にも使用可能なペット。関節炎、打撲、手術後創傷など急性期は冷却、慢性期は温める。



\*リハビリテーションの一環として、自宅近くの公園施設でリードを付けてゆっくり歩く、階段を昇り降りするクリス



## 参考文献

- 1) Virginia Henderson. 湯楨ます・児玉香津子訳:「看護の基本となるもの」5-14,75-77 日本看護協会出版会、(1995)
- 2) ヴィクター・スクレトコヴィッチ編 助川尚子訳:Florence Nightingale's Notes on Nursing.「看護覚書 決定版」 5-24 医学書院(2011)
- 3) 日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科 臨床部門編著:「疾患別動物看護学ハンドブック」緑書房(2012)
- 4) 全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編:「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 臨床動物看護学総論」interzoo(2014)
- 5) 全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編:「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 臨床動物看護学各論」interzoo(2014)
- 6) 全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編:「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 基礎動物看護技術」interzoo(2014)
- 7) 全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編:「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物外科看護技術」interzoo(2014)
- 8) 監訳桜井富士朗:「動物看護実践ハンドブック」interzoo(2013)
- 9) 松原孝子:「事例でやさしく解説今からはじめる動物看護過程」interzoo(2011)
- 10) 松原孝子:「一般社団法人日本動物看護職協会 動物看護実践基準」interzoo(2014)
- 11) 一般社団法人 日本動物看護職協会:「動物看護者の倫理綱領」interzoo(2011)
- 12) 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論基礎看護学①医学書院(2014)
- 13) 有田清子他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②医学書院(2014)
- 14) 有田清子他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③医学書院(2014)
- 15) 山下真理子:獣医療体制分野における中核的仁斎育成としての動物看護師及びペット産業マネージャー養成プログラム開発事業 職域プロジェクト(動物・ペット産業)実施委員会動物看護師コアカリキュラム検証分科会実証講座「臨床動物看護学」(2003)
- 16) Darry L.Millis, MS,DVM;David Levine,PT, 第4回テネシー大学公式認定「犬のリハビリテーションセミナー」コースiv、ペットベット、東京 2010)

## 参考資料

- 1) 日本獣医師会の「インフォームドコンセント徹底」宣言
- 2) 獣医師の誓い—95 宣言
- 3) 日本獣医師会・獣医師会活動指針

# 日本獣医師会の 「インフォームド・コンセント徹底」宣言

(平成11年9月14日 記者発表)

1 社団法人 日本獣医師会（会長：五十嵐幸男）では、このたび、獣医師および獣医師会に対する社会の信頼を高め、より適正な動物医療を提供するため、全国の獣医師が一体となった「インフォームド・コンセント徹底宣言」を行います。また、同時に「診療料金表の例示様式」を作成し、全国の会員獣医師の診療施設に掲示するとともに、都道府県市獣医師会（地方獣医師会）における動物医療相談窓口の設置を推進します。

2 近年、犬や猫などの動物が、“家族の一員”として位置づけられるようになるとともに、“ヒーリング”といった役割をも担いつつあります。また、それに伴い動物医療の重要性も高まり、より適正かつ手厚い医療が求められています。

その一方で、最近の獣医療過誤、過剰診療、高額診療料金といった一部の獣医師による問題が取り上げられ、獣医師およびその医療体制全体への信頼を揺るがしかねない事態となっています。

こうした背景のなか、日本獣医師会では獣医師および獣医師会に対する信頼を高め、より適正な医療を行うため、全国の獣医師が一体となった「インフォームド・コンセントの徹底」を宣言することにいたしました。

3 「インフォームド・コンセントの徹底」とは、まず獣医師と飼い主とのコミュニケーションを深めるため、ペット動物の病気に関する説明、その病状、治療方針、予後、診療料金などについて十分に説明を行い、了解を得て治療などを行うとともに、各種診療情報を積極的に開示するというものです。

また、インフォームド・コンセントを徹底している診療施設であることを示すため、インフォームド・コンセント徹底を宣言するポスターを会員獣医師の施設に掲示し、同時に診療料金表の例示様式を作成し、診療料金の内容を施設内に掲示します。

さらに、各地方獣医師会においては、一般の飼い主などを対象にした動物医療一般に関する相談窓口の設置を本年度中をめどに推進いたします。

4 小動物医療では、人の医療におけるような健康保険制度がなく、いわゆる自由診療料金制となっており、診療料金の設定は、各診療施設がそれぞれ個々に定めることになっておりますが、日本獣医師会では、飼い主の方々が十分に納得できるよう、診療費の内容を明らかにするなど、その透明性や客観性を確保するように会員獣医師を指導しております。なお、獣医師会が診療料金の基準を作成したり、標準料金を定めることなどは、独占禁止法に抵触します。

このたびのインフォームド・コンセント徹底宣言は、そうした実状を踏まえながら、

より開かれた医療、適正な獣医療サービスの提供をめざすものです。

なお、インフォームド・コンセント徹底宣言などの施策は、日本獣医師会から各地方獣医師会を通じて会員獣医師に通知し、今秋から随時実施しますが、その詳細は以下のとおりです。

## (1) 「インフォームド・コンセント」の徹底について

ア 日本獣医師会では、獣医師倫理の総論的事項として「獣医師の誓い-95年宣言」(p.4 掲載参照)を、また獣医療に関わる各論的事項をそれぞれ定め、各地方獣医師会を通じて会員獣医師に対する指導を行ってきました。

その一方で、最近ごく一部の心ない獣医師による過剰診療、医療過誤、高額診察料といった問題がマスメディアで取り上げられ、獣医師・獣医師会全体に対する信頼が揺らぎかねない事態となっています。

日本獣医師会では、こうした背景のなか、平成11年度の重点事業として、「インフォームド・コンセントの徹底」などを推進することにいたしました。

イ 動物医療におけるインフォームド・コンセントとは、適正な医療サービスを提供することを目的として、獣医師と飼い主とのコミュニケーションを深め、診療に際し、受診動物の病状および病態、検査や治療の方針・選択肢、予後、診療料金などについて、飼い主に対して十分説明を行ったうえで、飼い主の同意を得ながら治療等を行うことを意味します。

今回のインフォームド・コンセント徹底宣言は、上の事項を改めて会員獣医師に徹底し、その姿勢を飼い主をはじめ一般市民にも理解していただくというものです。

同時に、会員獣医師はその姿勢を示すため、インフォームド・コンセント徹底宣言を示すポスターを診療施設に掲示するとともに、日本獣医師会が作成した別記「診療料金表の例示様式」に従って診療料金を明示した料金表を診療施設の待合室などに掲示します。

ウ 小動物の医療は、人の医療と技術的面では同様であるものの、その目的や社会的要求、あるいは動物に対する考え方は大きな違いがあります。従って、小動物のインフォームド・コンセントと人のインフォームド・コンセントも基本的には同じですが、異なる面もあります。

人に対する医療とインフォームド・コンセントは、基本的には医師と患者の間で成立するのに対し、動物の医療は、動物と動物の所有者(飼い主)そして獣医師の三者で成立します。また、人の医療では救命が最優先されますが、動物の医療では必ずしも救命が優先されるとは限りません。

従って、獣医師は、飼い主の意識と希望を十分に踏まえたうえでインフォームド・コンセントによる医療を提供することが要求されることとなります。小動物などのペットの生命についての意識は、その飼い主によって大きく異なり、救命を最優先する飼い主の方もいれば、ペット動物の苦痛を思いやり、安楽死を選択する飼い主の方もいます。

日本獣医師会では、このたびの小動物医療に関するインフォームド・コンセントの徹底を機に、ペット動物の医療や生命に関する社会の意識を喚起し、獣医師と飼い主

とのより良い信頼関係を築いていきたいと考えています。

## (2) 動物医療相談窓口の設置について

日本獣医師会では、このたびのインフォームド・コンセント徹底宣言と同時に、より開かれた動物医療を実現するため、各地方獣医師会による動物医療一般に関する相談窓口の設置を推進します。

これは、ペット動物の健康相談、病気のことなどについての相談を受け付けるものです。

(別記様式)

## 診療料金表の例示様式

# 診 療 料 金

この料金是一个の目安です。診療内容等により料金が変わることがあります。

初 診 料： ○○○○円  
再 診 料： ○○○○円  
往 診 料： ○○○○円

相 談 料： ○○○○円

文 書 料： ○○○○円から

(診断書、証明書等の文書の内容に  
より、相当の料金とします。)

入 院 料：  
犬 { 大 型 ○○○○円  
      中 型 ○○○○円  
      小 型 ○○○○円  
猫 ○○○○円

注 射 料： ○○○○円から

(皮下注射、筋肉注射等の注射の内  
容により、相当の料金とします。)

予防注射料：  
犬 { 狂犬病予防注射 ○○○○円  
      ○種混合ワクチン ○○○○円  
      ○種混合ワクチン ○○○○円  
猫 { 〇種混合ワクチン ○○○○円  
      〇種混合ワクチン ○○○○円

エックス線検査料： ○○○○円から

心電図検査： ○○○○円から

超音波検査： ○○○○円から

検 査 料：  
血 液 検 査 ○○○○円から  
尿 検 査 ○○○○円から  
糞 便 検 査 ○○○○円から

(検査の内容により相当の料金とし  
ます。)

投 薬 料： ○○○○円から

(内用薬、外用薬等の投薬の内容に  
により相当の料金とします。)

手 術 料：  
不妊手術 (麻醉料を含む)  
犬 { 雄 ○○○○円から  
      雌 ○○○○円から  
猫 { 雄 ○○○○円から  
      雌 ○○○○円から

(手術については、動物の種類、手  
術の難易度等により相当の料金と  
します。)

○○○○年○○月○○日

○○○○動物病院



日本獣医師会・獣医師倫理綱領

## 獣医師の誓い—95年宣言

人類は、地球の環境を保全し、他の生物と調和を図る責任をもっている。特に獣医師は、動物の健康に責任を有するとともに、人の健康についても密接に関わる役割を担っており、人と動物が共存できる環境を築く立場にある。

獣医師は、また、人々がうるおいのある豊かな生活を楽しむことができるよう、広範多岐にわたる専門領域において、社会の要請に積極的に応えていく必要がある。

獣医師は、このような重大な社会的使命を果たすことを誇りとし、自らの生活をも心豊かにすることができるよう、高い見識と厳正な態度で職務を遂行しなければならない。

以上の理念のもとに、私たち獣医師は、次のことを誓う。

- 1 動物の生命を尊重し、その健康と福祉に指導的な役割を果たすとともに、人の健康と福祉の増進に努める。
- 2 人と動物の絆（ヒューマン・アニマル・ボンド）を確立するとともに、平和な社会の発展と環境の保全に努める。
- 3 良識ある社会人としての人格と教養を一層高めて、専門職としてふさわしい言動を心がける。
- 4 獣医学の最新の知識の吸収と技術の研鑽、普及に励み、関連科学との交流を推進する。
- 5 相互の連携と協調を密にし、国際交流を推進して世界の獣医界の発展に努める。





## 日本獣医師会・獣医師会活動指針

### － 動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。－

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興・再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領 獣医師の誓い－95年宣言」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

#### 【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WCS）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。

【執筆者】

山下 真理子 Mariko YAMASHITA

獣医師・博士(歯学)

日本大学農獣医学部獣医学科 卒業

日本大学松戸歯学部解剖人類形態学講座 修了

赤坂動物病院副院長

日本動物高度医療センター ホスピタリティー部門医長

上記を経て現職

学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校 教頭

文部科学省平成26年度委託事業

「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」

獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業

職域プロジェクト

獣医療体制分野における中核的専門人材養成としての

動物看護師養成プログラムの開発と検証

臨床系科目検証 WG 編

## 動物看護学

発行日：平成 27 年 2 月 18 日

発行者：大阪ペピイ動物看護専門学校

住 所：〒537-0025 大阪市東成区中道 3-8-15

電 話：06-6978-3022

\* 本書の内容を無断で転記、記載することは禁じます。